

2 華北における日本軍の諸要求事件

〔梅津・何応欽協定〕および「土肥原・秦徳純協定」問題を含む

275 昭和10年5月4日 在天津川越総領事より
広田外務大臣宛(電報)

天津日本租界内で中国人新聞経営者殺害事件
二件が同時発生について

天津 5月4日後発
本省 5月4日後着

第一〇七號

二日午後十一時頃日本租界壽街北洋飯店二宿泊中ノ胡恩溥ナル者就寢中「ピストル」四發ノ狙撃ヲ受ケ病院ニ於テ間モ無ク絶命シ又同夜午前四時頃租界内須磨街ノ自宅ニ於テ白逾桓ナル者之亦就寢中「ピストル」三發ノ狙撃ヲ受ケ即死添寢中ノ子供負傷セル事件發生セリ
犯人ハ何レモ逃走シ何等手掛リヲ殘サス當館警察ニ於テ極力手配中ナル處胡ハ租界ニ於テ支那新聞國權報ヲ經營シ極力反蔣(反國民黨)援滿ノ空氣ヲ鼓吹スル一方胡自身常ニ北

北平 5月20日後発
本省 5月21日前着

第一四七號

關東軍ヨリ高橋武官ニ達シタル報道ニ依レハ熱河南部ノ孫永勤^(前)匪ハ關東軍ノ討伐ヲ受ケ最近長城以南ニ遁走シ遵化附近ヲ根據トシ居ル處支那官憲ハ之ヲ庇護スル態度ニ出テ居ルヲ以テ關東軍ハ已ムヲ得ス長城以南ニ進出シテ之ヲ討伐スルコトナリタル趣ニシテ本二十日同武官ヨリ右關東軍進出討伐ノ次第ヲ軍事分會ニ通告セリ

(付記)

昭和十年五月二十二日

支那時局報第二十五號

北支停戰區域ヲ根據トスル匪賊ノ滿洲國內ノ擾亂ト
關東軍一部ノ之ヲ掃蕩ノ爲ノ停戰區域内ヘノ出動

參謀本部

目次

一、要旨

二、孫永勤匪ノ狀況

三 華北問題

支政變ヲ畫策シ居リ最近ハ滿洲國重要方面ニ聯絡シ來タレリトテ歸津シ此ノ災厄ニ遭ヒシモノニテ又白ハ租界内ニ於テ振報(滿洲國特務機關トノ間ニ補助關係アリ)ヲ主宰シ居リ同報ノ態度及白自身ノ行動ハ全然胡ト同様ニシテ右兩名トノ間ニハ特ニ連係無キモ等シク支那側ヨリ極度ニ警戒セラレ居タル關係アリ彼等ハ一夜ニ相前後シテ暗殺セラレシモノナルヲ以テ本件犯行ノ裏面ニハ何等政治の事情存在スル事直ニ想像セラルル次第ニテ當館ニ於テハ引續キ犯人ニ對スル手配中ナルモ不取敢

支、北平、南京、滿ヘ轉電セリ

276 昭和10年5月20日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

關東軍が長城以南に進出し孫永勤軍討伐を決
行する旨北平軍事分會へ通報について

付記 五月二十二日、參謀本部作成

「北支停戰區域ヲ根據トスル匪賊ノ滿洲國內ノ擾亂ト關東軍一部ノ之ヲ掃蕩ノ爲ノ停戰區域内ヘノ出動」

三、支那官憲ノ滿洲國內匪賊ノ支援

四、關東軍ノ處置

一、要旨

從來北支停戰區域ヲ根據トシ屢々長城ノ線ヲ出入シツツ熱河省南部地方ヲ擾亂シタル孫永勤ノ指揮スル匪賊ハ先般來實施セラレタル皇軍某混成旅團ノ討伐ニ遭ヒ其殘黨ヲ率キテ停戰區域タル遵化附近ニ脱出セリ

據テ關東軍ハ右北支ヨリスル熱河擾亂ノ根源ヲ芟除スル爲メ某混成旅團ヲシテ討伐ヲ實施セシムルコトナリ五月二十日頃該部隊ノ出動ヲ見ルニ至レリ

二、孫永勤匪ノ狀況

孫永勤ハ昨年十二月部下ヲ糾合シテ下板橋^(城)(熱河省南部喜峰口北方)附近ヲ中心ニ活躍シ十二月三十日柳河口(下板橋南方二五軒)ヲ襲撃掠奪セルカ日滿軍ノ討伐ニ依リ喜峰口附近長城線内外ニ潛伏スルニ至レリ爾來該匪ハ根據ヲ關内ニ置キ所在ノ反滿抗日分子ヲ糾合シ長城線ヲ出入シテ下板橋ヲ中心トシテ執拗ナル擾亂ヲ續ケツツアリ承德地區司令官王永清ハ二月下旬自ラ出動該匪ヲ討伐シ相當ノ成果ヲ與ケタルモ孫匪ハ所在ノ匪賊ト合流シ次第

ニ其數ヲ増加シタルヲ以テ再ヒ皇軍某混成旅團之ヲ討伐シ大ナル損害ヲ與ヘタリ然ルニ孫永勤ハ殘黨ヲ率ニ復々長城線内遼化附近ニ脱出後圖ヲ策スルニ至レリ而シテ遼化縣長ハ從來ヨリ孫匪支援ノ事實アリ又最近停戰區域内豐潤、玉田、林南倉附近一帯ニ激烈ナル反日「ボスタ」ヲ貼付スルニ至レリ

三、支那官憲ノ滿洲國內匪賊ノ支援

最近ニ於ケル在滿匪賊數ハ日滿兩軍不斷ノ努力ニ依リ驚クヘキ減少ヲ示シアルモ尙且執拗ナル抵抗ヲ續ケツツアル所以ノモノハ其ノ背後ニ支、蘇兩國ノ支援アルニ由ル南京政府ハ其指導スル抗日反滿機關ヲ經テ常ニ在滿匪賊ニ軍資金ヲ送り人材ヲ潛入セシメツツアルハ事情ヲ知ルモノノ齊シク驚クコトニ屬ス

北支停戰區域ヲ根據トシ長城線ヲ出入シツツ熱河省ヲ擾亂シツツアル匪賊ハ獨リ孫永勤匪ニ止マラス而モ停戰區域若クハ平津地方支那官憲ノ支援ヲ受ケツツアルカ如キハ滿洲國ノ治安ニ任スル帝國ニトリテハ默視放任スヘカラサルコトニ屬ス況ンヤ神聖ナル停戰區域ヲ此種陰謀ノ巢窟ニ惡用スルニ於テヲヤ

孫匪掃蕩ノ爲行動ヲ起シ居ル模様ナル處是等誤解及紛糾ハ結局于學忠カ日本側ト釋然タラサルニ原因スルモノト思考セラルルヲ以テ汪兆銘ニ於テ同人ヲ除去スル爲蔣介石トモ打合ノ上工作中ナルカ于モ張學良等トノ聯絡ヲ堅クシ居ル爲簡單ニ措置シ難キ實情ナリ關東軍側カ些少ノ事件ノ爲藍衣社延イテハ蔣介石迄モ攻撃サルルハ前記工作ヲ益々困難ナラシムル次第ニ付此ノ點考慮アリ度シト語レリ陸軍武官トモ打合セ本官ヨリハ支那側カ誠意ヲ以テ斷然タル措置ヲ執ルコト必要ナリトノ趣旨ニテ應酬シ置ケルカ二十四日唐ハ再ヒ同日于ヨリ電報ヲ以テ北方ノ形勢緊張シテ同人ノ手ニハ負ヘサル旨訴ヘ來レリト語レリ

右御參考迄

支、北平、天津、滿ニ轉電セリ

278

昭和10年5月27日

在中国堀内大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

塘沽停戰協定区域を北平・天津方面まで拡張
方儀我山海關特務機關長より于學忠に提議と
の情報について

四、關東軍ノ處置

關東軍ノ今回執リタル處置ハ以上ノ已ミ難キ實情ニ基キタル適切ナル行爲ニシテ兵ヲ停戰區域ニ進ムルコト亦日支停戰協定ノ趣旨ニ照シ當然ノ權利ヲ行使シタルニ過キス而シテ今次ノ出動ハ徒ニ停戰區域内ヲ擾亂スルモノニアラサルコト此ニ贅ヲ要セス

277

昭和10年5月25日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

汪兆銘が于學忠河北省主席の転任を工作中と
の唐有壬内話について

第五〇七號

南京 5月25日後発
本省 5月25日後着

往電第四九五號ニ關シ

最近數回唐有壬ノ内話セル所ヲ綜合スルニ左ノ通天津日本租界ニ於ケル支那新聞記者ノ殺害ニ關聯シ日本新聞ハ蔣介石、宋美齡迄モ引合ニ出シ居リ(右ハ甚タシキ譏ナレハ日本側ニ抗議スヘシトノ意見モアル由)又關東軍ハ

第四三五號

上海 5月27日後発
本省 5月27日後着

南京發閣下宛電報第五〇七號ニ關シ

(1) 二十六日唐有壬ハ往訪ノ佐藤武官ト會談ノ際實ハ儀我大佐ヨリ于學忠ニ對シ口頭ヲ以テ非戰區域ヲ北平天津方面迄擴張方提議シ來リ于ニ於テ困リ居ル趣ナルカ右提議カ關東軍ノ正式提議ナルヤ又日本軍部全体ノ意嚮ヲ表示スルモノナリヤハ不明ナルモ其ノ目的ハ于ヲ排斥シ東北軍ヲ平津地方ヨリ一掃スルト共ニ同地方ヨリ黨部及藍衣社ヲ排除セントスルニ在ルモノノ如ク考ヘラルル處中央トシテハ東北軍ノ移駐乃至于學忠ノ處置ハ豫テヨリ考ヘ居リ張學良トノ關係等ノ爲未タ確定案ニ達セサルモ

(2) 右ハ要スルニ時期ノ問題ニテ何ノ道之ヲ實行スル積リナリ然レトモ黨部及藍衣社ノ排日活動ハ充分之ヲ取縮リ得ルモ之ヲ全然排除スルコトハ全体ノ問題ニ關係アリ北支方面ニ於テノミ實行スルハ至難ナレハ中央トシテモ弱リ居ル旨内話シ居タル趣ナリ右不取敢(二十五日日本官唐ト會談ノ際唐ハ未タ本件ヲ知ラサリシモノノ如ク二十六日朝本官黃郛ト

會談ノ際ハ黃毛未タ知ラサル様見受ケラレタルカ唐ハ佐藤ニ對シ本件ハ未タ黃郛ニモ話シ居ラスト述ヘ居タル由ナリ

279 昭和10年5月28日 在中国堀内大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

天津での新聞経営者殺害事件の責任追及問題
に関する影佐上海駐在武官の内話について

上海 5月28日後発
本省 5月28日後着

第四四二號
往電第四三五號ニ關シ

「アベンド」ヨリ南京電話ナル趣ヲ以テ日本ハ中國側ニ對シ天津ニ於ケル白胡暗殺事件ノ責任ハ于學忠ニ在リトシ同人ノ罷免及河北黨部ノ撤去ヲ要求シタル由ナルカ如何ト館員ニ對シ問合セ又韓復榘、孫殿英、傅作義及商震ハ南京政府ニ于學忠支持ノ電信ヲ發シタル旨語レルカ(前記質問ニ對シテハ大使館ヨリハスル申出ヲ爲シタルコト無キヲ告ケ置ケリ)當方ヨリ右ニ付武官室ニ質シタル處影佐中佐ハ

ハ右ノ措置丈ニテハ解決困難ナルヘキ旨ヲ注意シ居タルカ其ノ際影佐ハ中座シテ其ノ後ノ話合不明ナル旨ヲ内報シタル趣ナリ)

280 昭和10年5月30日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井支那駐屯軍參謀長らが中國側に対し孫永勤軍問題や天津新聞経営者殺害事件の責任を追及し要求事項を申入れについて

北平 5月30日後発
本省 5月30日後着

第一五六號(極秘扱)

二十九日支那駐屯軍參謀長酒井大佐ハ當地高橋武官同伴政務整理委員會委員長代理俞秘書長並二軍事分會委員長何應欽ヲ訪問シ最近滿洲國內ニ於ケル支那側ノ陰謀、長城附近支那義勇軍ニ對スル援助及天津ニ於ケル新聞記者暗殺ノ如キ「テロ」行爲ハ停戰協定ノ破壊ニシテ蔣介石ノ反日工作ノ反映ト認ムヘク日本軍ハ已ムヲ得スンハ再ヒ長城線ヲ超ヘテ進出セサルヘカラサルニ至ルヘク而モ是等策動ノ根據

(イ)天津軍ノ執リタル措置ハ詳ナラス

(ロ)在南京兩宮武官ハ唐有壬ニ于學忠問題ヲ話シタルモ黨部云々迄ハ多分言ヒタルニ非サルヘシ

(ハ)于支持ノ電信ニ付情報無キモ韓、孫及商ハ從來于ト聯絡シ居リタル關係上アリ得ヘキモノナリ(或ハ閻錫山モ此ノ舉ニ出ツルコトモアルヘシト附言セリ)

(2) 又華北ノ情勢ニ關シテハ

(イ)禍根ハ藍衣社憲兵(即チ黨部ノ活動)ニアルヲ以テ單ニ于ノ更迭ヲ以テ満足シ得ス黨部ノ活動ヲ抑ヘ得ル者ヲ于ニ代ラシメサレハ何ノ役ニ立タス

(ロ)天津特別市制定ハ中央黨部ノ勢力ヲ引誘スルコトナルヲ以テ反對ナリ

(ハ)現在出動部隊ハ多分一週間又ハ十日位ニテ引揚ケ得ヘシト内話セリ

(其ノ節影佐ハ本日午後唐有壬磯谷武官ヲ來訪シ來滬中ノ汪及黃連名ニテ蔣介石ニ對シ此ノ際于學忠ヲ轉任セシムル要アルコト河北省主席及天津市長ハ王克敏、商震、王以哲外一人中ヨリ選任方然ルヘキ旨電報シタル旨ヲ内報セルカ之ニ對シ武官ヨリ思付トシテ事件ハ黨部ノ活動ニ關係アレ

地ハ平津ニアルヲ以テ天津、北平ヲモ停戰區域ニ包含セシムルノ必要ヲ生スヘク又天津ニ於ケル胡、白兩新聞記者ノ暗殺ハ彼等カ日本軍ノ使用人ナル事實ニ鑑ミ明カニ北清事變ノ天津還附ニ關スル公文ヲ蹂躪セルモノニシテ斯ノ如キ條約違反ニ對シテハ日本軍ハ自衛行動ヲ執ルノ必要ヲ生スヘク日本軍ハ北清事變及滿洲事變ノ如ク事態ヲ重大視シ居リ之ヨリ生スル責任ハ支那側ニアリテ日本軍ノ關知スル所ニ非サル旨ヲ通告シ右ニ對スル要求トシテ

(一)蔣介石ハ日本ヲ敵國ト認ムルヤ又ハ友邦ト認ムルヤヲ明カニシ其ノ對日二重政策ヲ放棄センコトヲ要求ス

(二)憲兵第三團、藍衣社、政治訓練所及國民黨部ヲ北支ヨリ撤退セシメ

(三)是等背景ヲナス第二師及第二十五師等ノ中央軍ノ撤退(四)是等ノ責任者蔣孝先、丁昌、曾擴情、何一飛並二停戰協定ノ精神ヲ蹂躪セル于學忠ノ罷免ヲ申入レタルカ

(2) 俞秘書長ハ右ハ重大ナルヲ以テ黃郛ニ電報シテ其ノ訓令ヲ仰クヘシト答ヘ何應欽ハ組織ノ變更ハ自分ノ權限外ナルモ關係者ノ罷免等自分ノ權限内ニ於テ可能ナル處置ヲ執ルヘシト答ヘタルカ酒井參謀長ハ今日ハ是等ノ事項ヲ相談ニ來

が協議中の旨唐有壬内話について

南京 5月31日前発
本省 5月31日前着

第五三一號

往電第五二七號ニ關シ

本三十日唐有壬ハ日本政府ニ御傳ヘ願度シト前提シ昨日酒井、高橋兩武官ヨリ何應欽ニ對シ

(一)于學忠ノ罷免

(二)藍衣社及黨部ノ解散

(三)京津地方ヲ戰區ニ含マシムルコト

ノ三項ニ付申入ヲナセル趣本朝何ヨリ報告越セルニ付本日政府首腦部ニ於テ協議セルカ(一)于ハ湖北ノ四川境ト謂フカ如キ日本側ト接觸無キ方面ニ剿匪ヲ名トシテ移駐セシメ聞カサレハ罷免ス(二)黨部ハ右于ノ移駐ト共ニ解散スヘキモ藍衣社ハ存在セサレハ問題トナラス(三)ハ考慮ノ餘地無シト謂フニ一決セリ但シ于ノ移駐先ニ付テハ尙軍事的ノ考慮ヲ要スルト共ニ部下ノ反動的行動ニ付テモ研究ノ要アレハ何ニ對スル同訓ハ今暫ク遅ルヘシ尤モ憂慮ニ堪ヘサルハ于カ移駐若ハ罷免ノ命令ヲ聞カサルコトアルヘキ點ナリ現ニ二十

レル次第ニ非スシテ日本軍ノ斷乎タル決意ヲ通告スルモノナル旨ヲ言明シ暗ニ支那側ニ於テ是等ヲ實行セサル場合ニハ日本軍ハ逐次適當ノ行動ヲ執ルヘキ旨ヲ仄メカシ置キタル趣ナリ(右要求事項ハ絶對極秘トシテ一切發表セラレサル様御注意ヲ請フ)

右ニ關シ本官カ酒井ニ確カメタル所ニ依レハ本件ハ關東軍トモ打合ノ上ニテ酒井ハ關東軍及支那駐屯軍ヲ代表シテ申入レタル次第ナルカ右要求事項ハ實質上ハ要求ナルモ特ニ最後通牒的要求ノ形式ヲ執ラス支那側不履行ノ場合ニ於ケル我方獨自ノ裁量ニ依ル措置ヲ便宜ナラシムル爲一方的通告ノ形式ニテ我方ノ要望トシテ申入レタル由ナルカ萬一支那側ニ於テ右要求事項ヲ實行セサル場合ニハ特ニ最後通牒ノ如ク期限ヲ定メ居ラサルヲ以テ逐次其ノ情勢ニ從ヒ適宜之ヲ強制スルノ措置ヲ講スル考ナル趣ナリ

支、南京、天津ニ轉電セリ

281 昭和10年5月31日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求事項に關し中国政府首腦

五日何カ于北京ニ招致シ婉曲ニ辭職ヲ勸告セル處于ハ今年ハ北支ニ留マルヘシト主張セル由ニテ十九路軍ノ如ク租界攻撃等ヲ開始セストモ限ラス支那側ハ此ノ點ニ付苦心シ居ル次第ナレハ日本側ニ於テモ充分御諒承ノ上事件ヲ擴大セサル様御配慮アリタシト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ于ノ處分ハ一日モ速ニ實行スルコト必要ナリ等我方立場ヲ申聞ケ置キタリ

282 昭和10年5月31日 広田外務大臣より
在中國堀内大使館一等書記官、在南京須磨總領事、在中國若杉大使館參事官
他宛(電報)

酒井參謀長らの要求に關し蔣作賓在本邦中国
大使より広田外務大臣に対し本件解決への尽
力方を請について

本省 5月31日後8時30分發

合第四〇五號

南京發本大臣宛電報第五三一號ニ關シ

三十一日蔣大使本大臣ヲ來訪シ本朝南京政府ヨリ電訓ニ接シタル趣ヲ以テ最近北平ニ於テ酒井大佐等ヨリ(一)于學忠ノ

罷免(二)藍衣社及黨部ノ解散(三)京津地方ヲ戰區ニ含マシムルコトノ三項ニ付提議アリタリ然ルニ南京政府ハ從來ヨリ河北省政府ノ保定移轉方ヲ考ヘ居レルモ未タ實行ノ運ヒニ至ラサリシ處此等事項ハ支那ノ内政事項ニモ有リ旁々此ノ際其ノ自發的行爲トシテ右移轉(從テ于ノ保定移駐)ヲ實行スヘク尙于ノ後任者ニ付テモ考慮中ナリ又省政府ノ保定移轉ニ伴ヒ黨部モ當然同地ニ移サルヘシ尤モ藍衣社ナルモノハ存在セサルニ付之ハ問題トナラサル譯ナリ將又平津ヲ戰區ニ含マシムルコトハ到底不可能ナリ何レニスルモ日支關係好轉ノ折柄斯種問題ノ發生セルコトハ甚タ遺憾ナルカ從來日支關係ノ打開ニ努力セラレ來レル貴大臣ニ於テ本件解決ノ爲盡力アラムコトヲ希望スト述ヘタルニ付

本大臣ハ南京發本大臣宛電報第五三一號ノ内容ヲ告ケ蔣大使ト唐有壬トノ申出殊ニ于學忠ノ處分ニ關スル點ニハ相當ノ開キアリ又唐有壬ノ申出ハ帝國政府ニ傳達シ吳レトノコトナリシ由述ヘタルニ大使ハ南京來訓ハ何分電報ナルニ付ハツキリセサル節モアルモ大体御話ノ唐有壬申出ト一致シ居レリト述ヘタルニ付

本大臣ハ御申出ノ次第ハ兎ニ角軍部ニ傳フヘキ旨告ケタル

處大使ハ右傳達ノ結果ヲ至急承知シ度キ旨述ヘタルニ付本大臣ハ成ルヘク取急キ措置スヘキカ本件至急解決ノ爲メニハ支那側ヨリ直接天津軍側ニ申出アルコト可然尙日本ニ於テハ必スシモ支那側ヲ信賴セサル向アルニ付申出ノ内容ハ充分明確ニセラルルコト肝要ナリト告ケ置キタリ

283 昭和10年5月31日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

天津新聞經營者殺害事件の調査状況について

別電 五月三十一日發在天津川越總領事より広田外務大臣宛第一三九号

右事件に対する于学忠河北省主席宛抗議文

天津 發

本省 5月31日後着

第一三八號

往電第一〇七號ニ關シ

一、其ノ後當館警察ヲシテ銳意内查ニ努メシメ居ル一方當地帝國憲兵隊側ニ於テモ同隊自身ノ見地ヨリ搜索ノ歩ヲ進メ居ルカ犯行ニ關スル最有力ナル物的證據ハ當夜胡ヲ殺

害セル犯人ノ自動車番號「一〇六三」ニシテ右ハ調査ノ結果當租界居住沈燭昌ノ所有車番號ナルコト判明セリ然ルニ沈ハ元來所謂反動分子ナリシカ近來轉向ヲ看板ニ掲ケ反動分子排撃工作ヲ名ニ中央ノ歡心ヲ買ハントシ當地支那側某高官ニ話ヲ持チ掛ケタルコトニ付偶然當館警察ニ於テ確證ヲ入手セルコトアリシニ顧ミ此ノ筋ヲ辿ツテ容疑支那人數名ヲ留置取調ノ結果(沈ハ犯行後姿ヲ晦シタルカ南京ニテ監禁セラレ居ルヤノ聞込アリ)犯行指揮者ハ上海保安處長兼藍衣社中央總部執行部長楊虎ナル者ナリト目指サレ右楊虎ハ四月廿五日上海ヨリ來平シ在平中央憲兵第三團長ニシテ藍衣社華北區總部執行部長蔣孝先其ノ他ト種々聯絡接洽ヲ遂ケ五月三日(犯行ノ翌日)再ヒ南下セルコト殆ト確實トナリ其ノ間楊ハ自己及蔣ノ部下數名ヲ來津セシメテ犯行關係容疑者ト打合ヲ爲サシメタル模様ニテ(楊及蔣自身モ來津セルヤノ聞込モアリ)犯罪下手人及幫助者等モ略々見當ヲ附ケ得ルニ至レリ

二、軍側ニ於テハ本件發生後高橋武官、儀我大佐、赤井參謀等ニ於テ數次ニ亘リ省政府、北平政務整理委員會及軍事

分會當路者ニ對シ頗ル強硬ナル態度ヲ以テ抗議詰問ヲ重ヌルト共ニ邦字新聞及通信社並ニ我方ノ操縱シ居ル漢字新聞等ヲ利用シテ強硬宣傳ヲ爲サシメ最近ニ至リテハ屢武裝部隊ヲシテ支那街ヲ巡行セシメテ示威ヲ行ヒ居リ一方憲兵隊ニ於テハ容疑者及其ノ知人等ヲ片ツ端ヨリ拘禁糾問ヲ爲シ居ル爲黨部其ノ他各筋ハ戰々競々タルモノアリ官憲側ニ於テモ軍側ノ強壓豫想以上ナル爲相當狼狽ノ模様ナリ

三、本官トシテハ尙早ニ抗議ヲ爲スモ支那側カ軍側ノ強硬ナル態度ヲ如實ニ感得スルニ至ラサル限り徒ニ空砲ヲ放ツノ結果ニ終ルヘキヲ慮リ抗議提出ノ時機ニ付慎重考慮中ナリシ處一方支那側ハ省政府移轉又ハ首腦者更迭等ニ依リ本件ノ晁ヲ付ケ軍側ノ銳鋒ヲ避ケントシツツアルヤニ認メラレ或ハ任意犯人ヲ製造處罰シテ本件ヲ有耶無耶ニ葬リ去ラントスル惧スラアル情勢ニ至レル今日トシテハ最早充分ト認メ軍側トモ打合セノ上三十一日于主席ニ對シ別電第一三九號公文ヲ交付セリ

四、本事件ニ對スル我方ノ方策トシテハ本官ハ當初ヨリ支那側ノ「テロ」行爲ニ對抗シテ我方モ亦浪人或ハ支那人等

ヲ使役シテ報復的「テロ」ヲ行フカ如キ事ハ極力之ヲ避ケ寧ロ本事件ヲ契機トシテ北支方面ニ於ケル内面的政治工作機關タル在北平政治訓練所、憲兵第三團並ニ藍衣社等ノ秘密結社乃至暴力分子ヲ當方面ヨリ一掃セシムル様利用スル事最モ時宜ニ適スルモノト認メ軍側トモ右趣旨ニテ充分聯絡ヲ執リツツアル次第ニテ本件公文モ此ノ點ヲ主眼トシ我方ノ要望ニ拘ハラス依然トシテ暴力分子排除ノ實舉ヲサル場合ニハ我方ハ正々堂堂正規ノ實力ヲ用ヒテ是等分子ノ掃滅ヲ計ルモ已ムヲ得サルノ覺悟ヲ有スルモノナル事ヲ支那側ニ強ク印象セシムルヲ目的トシテ起草セル次第ナリ

本電別電ト共ニ支、北平、南京、滿ハ轉電セリ

(別電)

天津 5月31日後發
本省 5月31日後着

第一三九號

本月二日深更ヨリ同三日拂曉ニ亘リ國權報經營者胡恩溥及新經營者白逾桓相次テ當日日本租界ニ於テ拳銃ヲ以テ暗殺セ

ラレタル事件發生ノ次第ハ御承知ノ通ナル處本件ハ被害者平素ノ志業。身分犯行ノ手口犯罪現場ノ情況等ニ顧ミ世上ノヲ尋常ノ刑事々件視スル者無ク而モ右巷間ノ疑惑ハ時日ノ推移ト共ニ愈濃厚トナリツツアリ當館ニ於テハ事件ノ性質ニ顧ミ事件發生以來我方關係方面ト協力鋭意之カ内査ヲ進メ來リタルカ今日迄ニ蒐集セル諸般ノ材料ヲ冷靜ニ綜合檢覈ノ結果本件ハ一定ノ政治的目標ヲ有スル貴國側暴力團體乃至秘密結社ノ所業ナリト推斷スルノ外無キニ至レリ由來當北支地方ニ特殊ノ政治的使命ヲ有スル各般ノ貴國側暴力團體及秘密結社存在シ極メテ巧妙ナル方法ヲ以テ奸惡殘虐ナル直接行動ヲ敢行スルヲ憚ラサルハ顯然タル事實ニ屬シ右ハ豫テ當方面ノ和平安康ヲ顧念シテ已マサル我方ノ怪訝ニ堪ヘサル所ニシテ北支社會人心不安ノ根源實ニ茲ニ存スト斷セサルヲ得ス而モ今回彼等カ前陳ノ如ク日本租界行政權ヲ干犯シ其ノ治安ヲ攪亂スルニ至レルハ我方ノ斷シテ看過シ能ハサル所ナリ依テ本官ハ茲ニ貴主席ニ對シ此ノ際速ニ是等暴力團體及秘密結社ヲ當地方ヨリ芟除一掃スル爲有効適切ナル手段ヲ採ラレ以テ租界ノ安全保障及北支社會人心ノ安定ヲ計ラレンコトヲ要望シテ已マサルモノナリ

往電第四四二號ニ關シ

新聞指導ノ爲メ館員ヲシテ武官室ト密接聯絡セシメ居ル處右接觸ニ際シ得タル情報及印象大要左ノ如シ

一、陸軍側ニ於テハ華北問題ノ解決ハ地方的ニ行フヘキニアラスシテ同地方不安ノ根源ハ蔣介石及張學良ニ在リトシ之ヲ中央ノ問題トスル意嚮ナルカ如シ(二十日東京發聯合外務省非公式談話中「地方的ニ解決」云々トアルニ對シ市田少佐不滿ノ色ヲ表ハシ居タル趣ナリ)

二、陸軍ニ於テハ支那側ハ事態ノ真相ヲ認識セス(殊ニ蔣ハ殷同等ノ報告ニ接シ樂觀シ居ルノミナラス何應欽、黃郛、唐有壬、蔣ニ對シ實狀ノ全貌ヲ報告シ居ラサルヤヲ疑ヒ居レリ)于學忠ノ更迭位ニテ事ヲ濟マシ得ルモノト考ヘ居ルラシキヲ以テ之ヲ徹底セシムルヲ必要トシ磯谷武官ハ三十日午後五時黃郛ヲ答訪セル際軍側ノ意嚮ヲ徹底セシムルニ努メタリ

(2) 又同日午前在南京兩宮武官ヲ呼寄セ南京ニ於テハ須磨總領事ト聯絡シ同武官ヨリ同様ノ措置ヲ執ルコトニ打合セタル模様ナリ

三、尙孫匪及天津暗殺事件ニ付陸軍ノ有スル情報大要左ノ如

素ヨリ本官ハ貴主席カ其ノ責務ヲ痛感セラレ直ニ右我方ノ要望スル措置ヲ採ラルヘキヲ信シテ疑ハサルモノナルモ萬一貴主席ノ措置徹底ヲ缺キ今後依然トシテ此ノ種暴力團體又ハ秘密結社ノ策謀ニ依リ日本租界ノ治安ニ脅威ヲ感スルカ如キコトアリ自衛上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ右團體、結社ノ種類如何ニ拘ハラズ將又事實上其ノ何人ノ配下ニ屬スルヲ問ハス我方トシテハ自ラ適當ト信スル行動ニ出ツルコトアルヘク右ノ場合依テ生スル一切ノ結果ニ付テハ舉ケテ貴方ニ於テ之カ責ニ任スヘキモノナルコトヲ茲ニ通告ス

284 昭和10年5月31日 在中国堀内大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求に關し陸軍側は地方的解決では満足せず中央政府の責任を追及する意向との情報について

上海 5月31日後発
本省 5月31日後着
* 第四四八號

シ(傍受等ニ依リ知り居ル關係上絶對外部ニ出シ得サル趣ナリ)

(イ)白胡ノ暗殺ハ張學良ノ命ニ依リ楊カ爲サシメタルモノナルカ蔣介石ハ之ヲ默許シ居タリ又之ニ關係セル北平憲兵第三團長蔣某ハ介石ノ親戚ニシテ同人ハ目下來滬シ黃郛ヲ訪ネタル趣ナリ

(ロ)右事件ノ真相カ軍側ニ發覺セラレタルコトヲ知り中國側ハ注意ノ轉換ノ意味ニテ孫匪事件ヲ起サシメ何應欽ハ無電ニテ孫ヲ指導シ又ハ于學忠ニ對シ孫ニ武器ノ供給ヲ命シタリ

(ハ)于學忠更迭等ニ關シ汪精衛ヨリ蔣ニ電照セルニ對シ蔣ハ全部張學良ト打合ハスヘキ旨返電シタル趣ナリ
四、軍事行動ニ關シテハ武官室員ハ關東軍カ將來北支ニ出テサルコトヲ保シ得サルモ目下ノ處ハ主トシテ孫匪掃蕩ヲ目的トシ居ルヲ以テ天津、北平へ進出セス天津駐屯軍ノ威力ノミニテモ問題ヲ解決シ得ヘキ筈ナリト内話セリ(海軍武官ハ軍事行動ニ出テサルヘシト觀測シ唯陸軍ハ次カラ次ヘト押シ行クカ常套手段ナルヲ以テ注意ノ要アリトノ意見ナリ)

285

昭和10年5月(31)日

在中国堀内大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

関東軍の孫永勤軍討伐作戦に関する上海英字
紙の報道振りについて

上海

発

本省

5月31日後着

第四四九號

五月廿一日「ノース、チャイナ、デイリー、ニユース」ハ北平特派員ノ電報トシテ「孫匪ハ戦區ニ於テ活躍セル最初ノモノニ非サル事實ニ鑑ミ今回ノ軍ノ出動ニハ更ニ深キ動機アリトノ説廣ク行ハレ居レリ即チ關東軍ハ外務省カ相談無ク在支公使ヲ昇格セシメタルニ不満ニシテ外務省ノ對支親善關係再開ノ努力ヲ尙早トシ不賛成ナルコトハ衆知ノ事實ナルカ關東軍ハ無視スヘカラサルモノナルコトヲ示ス爲孫匪ノ跳梁ヲ軍事的示威ノ口實トセルモノナリト傳ヘラルル」旨報シ「チャイナ、プレス」ハ同趣旨ノ北平路電ヲ載セリ

北平、天津、南京、滿ハ轉電セリ

286

昭和10年6月(1)日

在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求に関し袁良北平市長と意
見交換について

北平

発

本省

6月1日前着

第一六二號(極秘)

本三十一日朝袁良來訪シ本官ニ内話スル所ニ依レハ二十九日日本軍側ヨリ支那側ニ對スル申入ニ關シ何應欽ハ昨三十日軍事分會及政務委員會首腦部ヲ召集シテ其ノ對策ニ付協議シタルカ何應欽自身ハ頗ル穩便ノ説ヲ持シ本件ヲ擴大セサル爲自己ノ職權内ニテ可能ナル事項ハ日本軍ノ要求ヲ容ルル考ナルモ其ノ部下ノ少壯軍人等ハ頗ル激昂シ居リ市内ニ於テモ謠言多ク民心幾分動搖シ甚タシキハ日本軍ハ有吉大使着任前ニ於テ軍事行動ヲ起スヘキヤノ噂スラアル爲實ハ極秘乍ラ彼ノ穩便ナル態度ニ憤慨セル某々二師團長等ハ之カ對應準備ノ爲昨夜密カニ保定ニ急行セル趣ニテ一般ノ空氣頗ル惡化セル旨ヲ語り

尙袁良ハ天津ニ於テハ駐屯軍ノ演習二名ヲ藉リ省政府及市

三 華北問題

政府ノ門前ニ大砲ヲ据エ附ケ威喝シ居ル由ニテ當地ニ於テモ同様ノ計畫アル趣聞込アル處天津ハ日本ト省政府トノ關係モアレハ兎モ角トスルモ當地ニハ其ノ必要モ無ク又外交團モアルコト故右ノ如キ行動ニ依ル不慮ノ事端ヲ發スルカ如キコト無キ様自分ニ於テモ充分努力スヘキニ付日本側ニ於テモ御注意ヲ願ヒ度シト申出テ尙今回軍側ノ申入ニ對スル本官ノ所見ヲ求メタルニ付本官ハ右ハ武官室發表ノ通最近ノ不祥事件等ニ鑑ミ陸軍側ニ於テ停戰協定其ノ他ノ根據ニ依リ北支ノ治安ニ關シ適切ナル警告ヲ發シタルモノニシテ自分トシテハ之ニ對シ何等意見ヲ表示スル立場ニ非サルモ若杉一個人トシテハ特ニ日本ト密接ナル關係アル北支ニ於テ從來ノ如ク日本側ニ接近セントスル要人又ハ事業ニ關シ(脱?)又ハ妨害ヲ加フルカ如キ憲兵第三團藍衣社及黨部ノ如キ存在ハ有害無益ナルヲ以テ

①) 之カ一掃ヲ計ルコトハ日支兩國ニ取り有利ナルヘク又兎角日本ニ對スル理解ヲ缺キ居ル幹部ニ包圍セラレ居ル于學忠ヲ罷免シ日本ニ理解アル然ルヘキ有力者ヲ以テ之ニ代フルコトハ我軍ノ感情及日支關係ヲ融和スル點ヨリ見テモ望マシキ次第ト考ヘ居リ要スルニ南京政府カ日支提携ノ掛聲ノ

ミナラス各地方ニ對シテモ誠實ニ日支提携ヲ可能ナラシムル様努力ノ必要アル旨ヲ答ヘ前記ノ如ク日本軍カ今直ニ軍事行動ヲ起スヘキヤ否ヤハ不明ナルモ右日本軍ノ申入ニ對スル支那側ノ措置如何ニ依リテハ武官聲明ノ通日本軍ノ進出ヲ見ルニ至ルヤモ計ラレサルニ付支那側ニ於テモ此ノ際我軍ノ申入ニ對シ深甚ノ考慮ヲ拂ヒ成ルヘク速ニ適當ノ措置ヲ執ラルルノ要アルヘシト告ケ置キタリ尙同日午後程錫庚來訪本件ニ付種々尋ネタルニ付袁良ニ對スルト同様應酬シ置ケリ

支、南京、天津ニ轉電セリ

287

昭和10年6月1日

広田外務大臣より
在中国堀内大使館一等書記官、在南京須磨總領事、在中國若杉大使館參事官
他宛(電報)

酒井參謀長らの要求は塘沽停戰協定に關連し
た軍事事項のため現地軍と交渉すべき旨在本
邦中国大使へ通報について

別電

六月一日發広田外務大臣より在中國堀内大使館一等書記官、在南京須磨總領事、在中國若杉大使館參事官

杉大使館参事官他宛合第四〇九号
右通報要領

本省 6月1日発

合第四〇八號

往電合第四〇五號ニ關シ

本一日東亞局長ヲシテ岡村第二部長、橋本軍務局長代理等ト協議セシメタル結果參謀次長及陸軍次官ノ同意ヲ得テ本大臣ヨリ蔣大使ニ對シ別電合第四〇九號ノ趣旨ヲ通報セル處早速其ノ旨本國政府ニ電報スヘシトノコトナリキ
追テ右回答要領ハ軍側ヨリモ出先ニ對シ電報セル趣ナリ

(別電)

本省 6月1日後3時15分發

合第四〇九號

本件ハ主トシテ停戰協定ニ關聯セル軍關係事項ナルヲ以テ外交交渉トシテ取扱フニ便ナラス出先軍憲ニ依リテ處理セラルヘキ性質ノモノニ付速ニ南京政府ヨリ我方出先軍憲ト交渉セラレ可然シ是レ事件ヲ擴大セシメサル爲ニモ必要ト思考ス尙貴大使ヨリ酒井大佐等ノ申出トシテ指摘サレタル

等ヲ召集シテ右經過ヲ説明スルト共ニ往電第一三八號本官抗議ヲ中心トシテ大評議ヲ行ヘリ右席上東北系廳長ハ何レモ我方抗議ニ憤慨シ右ハ黃郛殊ニ殷同ノ策謀ナリト斷言シ市長ニ對シテモ日本側ヨリ抗議ヲ受ケタリヤト暗ニ市長ト黃郛一派ト氣脈ヲ通スルコト無キヤト當擦スル等ノコトアリ結局何ノ辭職勸告ハ中央乃至學良ノ命令ニアラス中央又ハ學良ヨリ免職ヲ強制セラレサル限り現職ニ踏止マルコトヲ決議シ急遽移轉ヲ再開セリトノコトナリ

右情報接受後孫ヨリ再度通報アリタルカ右ニ依レハ本一日午後一時ヨリ三時迄ノ間ニ于ハ何ヨリ連續三度ノ辭職勸告電ヲ受ケ又復省政府首腦會議ヲ開ケルカ何ニ對シテハ辭職勸告モ懲戒免職モ結果同一ナルニ付懲戒免職ニセラレテハ如何トノ回電ヲ發スル一方當初何ヨリ辭職勸告アリタル際于ハ學良ニ指揮ヲ仰ケル由ニテ現在只管學良ノ指令ヲ待チ佗ヒ居レリトノコトナリ

尙支那側消息通ハ何レモ于ノ進退ハ本一日中ニ決定スヘシト觀測シ居レリト云フ

支、北平、南京、滿ハ轉電セリ

三項目ハ内容ニ稍々相違セル點アルヲ以テ貴方ニ於テ更ニ確メラレ度シ

288 昭和10年6月[1]日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

于學忠が何應欽からの辭職勸告に抵抗して
るとの情報について

天津 6月1日後發
本省 6月2日前着

第一四〇號

往電第一三七號ニ關シ

孫潤宇カ市長ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ中央ヨリノ命ニ依リ一旦保定移轉ヲ開始セル河北省政府ハ學良ノ急電ニ依リ卅一日朝俄ニ移轉ヲ停止セルカ卅一日何應欽ニ招致セラレ理由ノ説明モ無ク簡單ニ辭職勸告ヲ受ケタル于學忠ハ在北平王樹常、萬福麟、鮑文樾等東北將領ト凝議ノ結果此ノ際于一人カ犠牲トナル譯ナシ唯日本側ノ銳鋒ヲ避クル爲保定移轉ハ此ノ際速ニ斷行スヘシトノ申合セラ行ヒ同夜自動車ニテ歸津本一日午前九時ヨリ魏鑑以下省政府官吏及張市長

289 昭和10年6月[3]日 在中国堀内大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求に関する磯谷大使館付武
官と唐有壬との意見交換について

上海 6月3日後發
本省 6月3日後着

第四六〇號(大至急、極秘)

三日本官カ磯谷武官ヨリ聞キタル所左ノ通

(委細武官ヨリ電報濟ノ由)

二日夕刻唐有壬ハ武官ヲ來訪セルカ其ノ目的ハ

(一)今回ノ日本軍ノ要求ニ關シ何應欽王克敏黃郛及汪兆銘ノ間ニ大体意見一致シ之ヲ容ルルコトヲ可トスルニ決シ先ツ行政院長ノ權限ヲ以テ爲シ得ル于學忠ノ省主席罷免ヨリ始メムトノ意嚮ナルカ于ノ背後ニ張學良アル爲辭職ヲ肯セス強ヒテ免職シタル場合ニ于及部下ノ軍隊カ反抗シテ國際的問題テモ惹起シタルトキハ汪院長責任ヲ負ハサルヘカラサルカ爲躊躇シ居ル次第ナルカ(二日夜來訪セル彭學沛モ本官ニ對シ之ト同様ノ話ヲ爲シ居タリ)斯ル場合ニ日本軍ハ如何ナル態度ヲ採ラルヘキカ

(二)六月十二日迄ニ要求實行セラレサルトキハ日本軍ハ自由行動ヲ執ルヘシトノ風説アル處
斯クハ自己ノ重大ナル責任ノ上ニ處置スルモ無駄ナレハ寧ロ初メヨリ何等措置セサル方優レル次第ナルカ右風説ハ果シテ眞ナリヤ

ノ二點ヲ武官ニ質スニアリ之ニ對シ武官ハ

(一)于及軍隊ノ反抗アラハ何應欽ノ中央軍ハ之ヲ解決スルコト然ルヘク我方トシテハ是等軍隊ノ行動カ我權益ヲ害スル様ナ場合ニハ素ヨリ自衛手段ヲ執ルヘキモ然ラサル限リ進ンテ我方ヨリ攻勢ヲ取ルカ如キコト無カルヘシ

(二)支那側力遷延策ヲ執ル場合ニハ軍ハ必要ノ行動ニ出ツルヤモ計ラレサルモ時ヲ限りテ自由行動ヲ執ルヘシトハ根據ナキ風説ナリ

等應對シ且于カ日本軍ニ反抗スルカ如キ惧ハ無キニ付勇ヲ鼓シテ速ニ處置スル様激勵シタルニ

唐ハ實ハ對内關係ニ苦シミ居レリト蔣介石ヨリハ張學良ト共ニ北支問題ヲ處理スヘキ旨電報アリタルノミニテ南京ヨリノ三十數回ノ電信ニ對シテ一回ノ回電モ無ク汪トシテハ獨斷ニテ處置シタル後蔣力學良ヲ支持シ汪ノ責任ヲ問フ

ニ對シテハ于カ中央ノ代リニ責任ヲ負ハセラルルニ同情ノ意ヲ表シ于ハ頑トシテ辭表提出ヲ拒ムヘキコトヲ勸メタル趣內話シタリ又于ヲシテ強硬ナル態度ヲ執ラシムルニハ于自身ヲ慮メルヨリモ中央(何應欽)ニ對シ于ノ罷免ヲ強要スル方適當ナルカ關東軍ハ兎角于カ憎キ爲于ヲ責メ居ルハ不味シト述ヘ居タル趣ナリ御參考迄

291 昭和10年6月(4)日 在天津川越總領事より 広田外務大臣宛(電報)

于學忠引揚げ後の天津市治安維持に関する張廷諤天津市長の内話について

天津 發
本省 6月4日後着

第一四六號

本四日張市長本官ヲ來訪シ昨日引揚ケタル于學忠ヨリ出發前ハ何ノ挨拶モ受ケサリシモ出發後數時間ヲ經テ貴方ヘ照會置キノ(本電發出迄未着 指令ニ接セルカ右ニ依リ天津市ノ治安ハ商會公安局ト共同維持セラレタシ公安局ニ對スル指揮監督ハ市長ヘ委任ストアリ右主席ノ指令ニハ疑義モア

ヘキコトヲ惧レ容易ニ決シ兼ヌル次第ナリト汪一派ノ苦衷ヲ述ヘ居タル趣ナリ尙唐ハ同日黃郛及王克敏ノ意見ヲ質シ歸寧セル由南京發貴大臣宛第五四七號ノ(一)ハ其ノ結果ナリト思ハル右爲念

北平、天津、南京ヘ轉電セリ

290 昭和10年6月4日 在中国堀内大使館一等書記官より 広田外務大臣宛(電報)

于學忠に対する酒井參謀長および影佐武官の言動について

上海 6月4日前發
本省 6月4日後着

第四六一號

當地武官室入電ニ依レハ于學忠ハ三十一日酒井大佐ヲ往訪シ自分カ若シ河北獨立ヲ企ツル場合ニハ日本軍ノ援助ヲ得ヘキヤト尋ネタルニ對シ酒井ハ之ヲ相手ニセサリシ趣ナル處影佐中佐ハ館員ニ對シ右回答ハ飽氣ナサ過キル感アリトシト衝突無ケレハ片付キ相モ無シト漏ラシタルカ當地ニテモ于ノ代表者影佐ヲ來訪セル由ニテ影佐ハ右于ノ代表者

リ直ニ中央ヘ請訓中ニテ此處ニ、三日何分ノ訓令ニ接スヘシト信スルモ此ノ際ニ於ケル當市治安ハ寔ニ重大ニシテ自分トシテハ勿論深ク責任ヲ感シ居レルニ付早速御挨拶ヲ兼ね指教ヲ請フ次第ナリト述ヘタルニ對シ本官ハ既ニ主席ヨリ指揮監督權ヲ委任セラレタル以上ハ御話ノ中央ノ訓令アル迄ハ市長ヲ以テ當市治安責任當局ト解スルノ外無シト申聞ケタル上往電第一三八號ノ我方ノ于學忠ニ對スル通告ノ趣旨ヲ説述シ注意ヲ喚起シ置ケリ

292 昭和10年6月4日 在滿州国南大使より 広田外務大臣宛(電報)

滿州国出張中の永田軍務局長より橋本陸軍次官に対し酒井參謀長らの要求達成のため關係方面への善処を求める電報發出について

別電 六月四日發在滿州国南大使より広田外務大臣宛第五三四號
右電報要領

新 京 6月4日後発
本 省 6月4日後着

第五三三號

谷參事官ヨリ

北支問題ニ付當方面出張中ノ軍務局長ハ林陸軍大臣ノ命ニ依リ陸軍次官ニ對シ三日奉天特務機關ヲ通シ別電ノ如キ電報ヲ發シタル越ナリ御參考迄

(別 電)

新 京 6月4日後発
本 省 6月4日後着

第五三四號

北支那政權ニ對スル天津軍ノ交渉ノ件ハ只今關東軍參謀ノ報告ニ依リ承知セリ
右交渉ノ内容及方法ニ付テハ多少ノ意見アルモ既ニ矢ハ弦ヲ離レタルモノナレハ中央ニ於テモ之ヲ支持スヘク又關東軍トシテハ飽迄天津軍ヲ支持シ其ノ要望事項ノ達成ニ協力スルヲ適當トシ之カ爲今直ニ兵力ヲ行使スルカ如キコトハ豫期セサルモ執拗ニ要求ヲ反覆スルヲ要ストノ方針ニ決シ

タルコト

四、憲兵第三團特務處(處員二十名)ヲ解散シタルコト
五、于學忠及張廷鏐^(譯)ノ罷免ヲ要請シタルコト

六、天津市黨部ノ解散及省黨部ノ對外活動停止並ニ特務人員
罷免ニ關シ建議シタルコト

七、第二十五師ノ學生訓練班ヲ解散シタルコト

依テ參謀長等ハ蔣介石ノ抗日政策ノ放棄並ニ北支ニ於ケル其ノ實行機關ノ撤退ニ關スル根本問題ノ處理振ヲ尋ネタルニ對シ何應欽ハ蔣介石ヨリ從來日支親善ニ努力シツツアリシニ拘ラス今回ノ事件ヲ起シタルヲ遺憾トスル旨ノ來電アリタルモ前記諸點以外ニ具體的解決ニ付テハ未タ示シ來ラサル趣ヲ述ヘタル上憲兵第三團政治訓練所、省黨部ノ撤退ハ何ノ權限ニ於テハ實現ヲ期シ得サルモ努力スヘキコト及中央軍ノ撤退ハ最モ苦痛トスル所ニシテ如何トモシ難シト述ヘタルヲ以テ參謀長等ハ對日根本方針ノ更改及抗日諸機關諸部隊撤退實現方ニ關シ蔣介石及南京政府ヲ督促スル様何ノ努力ヲ求メ何ハ努メテ和平裡ニ解決スル様引續キ盡力スヘキ旨答ヘタル趣ナリ

三 華北問題

支、天津、南京、濟南、青島、漢口、廣東、福州へ轉電セ

アル趣ニテ大臣ハ之ヲ諒承セラレタリ就テハ右ノ趣旨ニ基キ外務其ノ他關係ノ向へ善處方御配慮アリタシ

293 昭和10年6月5日 在中国若杉大使館參事官ヨリ
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らが要求事項に対する中国側実行
状況を何應欽に照会について

北 平 6月5日後発
本 省 6月5日後着

第一七〇號

四日酒井參謀長來平高橋輔佐官ト共ニ何應欽ヲ訪問シ五月二十九日軍側申入後支那側ニ於テ執リタル措置ニ付尋ネタルカ既ニ處理シタルモノトシテ何ノ述フル處左ノ如クナリ
シ趣ナリ

一、河北省政府及天津市政府ニ對シ共同シテ犯人ヲ逮捕セシムヘク命シタルコト

二、于學忠ニ對シ縣長民團等ノ匪賊ニ對スル援助ニ關シ調査ヲ命シタルコト

三、蔣孝先、丁昌、曾擴情ノ三名ヲ六月一日附ヲ以テ罷免シ

リ

294 昭和10年6月5日 在南京須磨總領事ヨリ
広田外務大臣宛(電報)

于學忠の四川移転決定を唐有壬が兩宮南京駐
在武官へ内報について

南 京 発
本 省 6月5日後着

第五五〇號

昨四日唐有壬ハ兩宮武官ニ對シ于學忠ノ處分ハ二日程待タレ度シト述ヘ同武官ヨリ遲滯スレハ形勢惡化スヘキ旨警告セル趣ナルカ本日唐ハ本官ニ對シ于ヲ川。甘。陝。邊。區。剿匪總司令ニ任スルコトトシ一方何應欽ニ對シ河北省政府主席ニ就任方勸メタルモ何ハ于ニ辭職ヲ勸告セル關係上于ノ部下ノ怨ヲ買フコトトモナルヘキ點ヲ考慮シ就任ヲ固辭セルニ付建設廳長ヲシテ代理セシムルコトトナレリ右ニ對シ于ハ未タ同意シ居ラサルモ相當部隊ヲ率ヒテ四川方面ニ赴クヘク此ノ上ノ混亂ハ無カルヘシト思考スト語レリ
尙右決定ハ明日發表スル由

支、北平、天津、滿へ轉電セリ

295 昭和10年6月6日

広田外務大臣より
在中国堀内大使館一等書記官、在南京
須磨總領事、在中国若杉大使館參事官
他宛(電報)

孫永勤軍問題や天津新聞經營者殺害事件に対
する国民政府の措置方針を在本邦中国大使が
通報について

本省 6月6日後3時40分発

合第四一七號

六月五日蔣大使本大臣ヲ來訪シ汪院長ヨリ電報アリタル趣
ヲ以テ天津ニ於ケル白及胡殺害竝ニ孫永勤ノ事件ニ就テハ
國民政府トシテ責任ヲ取ルヘキ筋合ニ非ズト思考スルモ特
ニ日支ノ關係ヲ考慮シ

(1)天津ヲ特別市トシ王克敏ヲ市長トシ商震ヲ警備司令トス
(2)河北省政府ノ保定移轉ハ既ニ實行ニ着手セル旨公報ニ接
シタリ

(3)于學忠ノ後任ハ目下詮衡中

(4)憲兵第三團長蔣孝先及政治訓練處長曾擴情ハ其ノ現地位

付記 六月六日、陸軍・海軍・外務三省決定

「北支交渉問題處理要綱」

南京 6月7日後発

本省 6月7日後着

第五五八號(極秘)

往電第五五〇號ニ關シ

本七日唐有壬本官ヲ來訪シ軍側ノ要求ト認メラルル點ハ殆
ト全部難キヲ忍ンテ實行セルニモ拘ラス日本側ハ尙釋然タ
ラサル様見受ケラルル處汪院長(學生軍事教練ニ關聯シ蘇
州ニ赴ケルカニ、三日中ニ歸寧ノ由)ハ特ニ貴官ニ就キ右
事情ヲ確カメ旁廣田大臣ノ考慮ヲ得度シト思ヒ居レリ又丁
參事官(廿八日成都發本日着寧)ノ齎セル蔣介石ヨリノ傳言
ニ依レハ蔣軍側眞意那邊ニアルヤ捕捉スルニ苦ミ居ル由
ニテ一部ニハ日本側要求ヲ中央軍ノ四川剿匪一向ニ進捗セ
ス蔣力剿匪ニ追ハレ居ル時節柄ニモ結着ケ憂慮シ居ルモノ
アリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ北支ヲ現在ノ情勢ニ立至ラ
シメタル責任ハ支那側ニ存スル次第ナレハ(此ノ點唐モ否
定セス)姑息療治ニ満足セス禍根ヲ芟除スルコト必要ナリ
軍側申入ニ付不明ノ點アラハ早速何應欽ニ照會スルコト然

ヲ免ズ

(5)藍衣社ハ元來存在セザルモノナルニ依リ問題トナラズ
(6)黨部ハ省政府ノ保定移轉ニ伴ヒ當然同地ニ移轉ス

右等措置ハ今回ノ事件トハ直接ノ關係ナキ次第ナルカ國民
政府ハ日支ノ親善關係ヲ傷ケザル様特ニ考慮シ實行スル次
第ナルヲ以テ御了解アリ度旨述べタルニ付本大臣ハ敍上御
話ノ次第ハ支那側ヨリ天津軍側ニ申出ラレタルヤト尋ネタ
ルニ同大使ハ然リト思フ旨答ヘタリ依テ本大臣ハ兎モ角御
申出ノ次第ハ軍側ニ傳達スル様取計フヘキカ今後共兩國ノ
關係ヲ惡化セサル様努力スルノ必要アリ殊ニ最近北支地方
ニ於テ流血ノ事件ヲ見タルハ誠ニ遺憾ナリ此上同種ノ事件
ノ發生ヲ見ルガ如キ事アラバ實ニ憂慮ニ堪ヘズ又右御申出
ノ措置ニ關聯シ支那側ニ何等カノ事端發生ノ風説モアルニ
付充分注意ノ要アルベキ旨告ゲ置キタリ

296 昭和10年6月[7]日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求に対し国民政府提示の措
置方針にて解決方唐有壬要望について

ルヘシト應酬セル處

唐ハ何ニ於テ處斷シ難ク又全然停戰協定ノ範圍(圍)ヲ逸脱セ
ル事項例ヘハ日支經濟合作及一般兩國間政治問題ノ如キハ
當然貴方外交官憲ト南京政府トノ間ニ於テ研究セラルルコ
ト筋道ナルヤニ存セラルト述ヘタル上日本側ニテ第二師、
第二十五師ノ駐屯ニ御不滿ナラハ交替等ノ措置ヲ講シ何ト
カ御満足ノ行ク様致スヘキモ支那領土内ニシテ而モ停戰協
定ト關係ナキ地帯ニ駐屯スル中央軍ノ一律撤退ヲ要求セラ
ルルハ了解ニ苦ム次第ナリ中央軍ヲ撤退セハ河北省ノ獨立
ヲモ誘致スルニ至ルヘク假ニ何ヨリ軍ニ命令スルモ事ヲ起
サスシテ之ニ應スヘキヤ否ヤ疑問ナリト述ヘ更ニ支那ハ過
激分子ヲ抑ヘ付ケ新聞ヲ完全ニ統制スル一方現在ノ日支關
係ニモ顧ミ又復以夷制夷ノ非難ヲ受クルハ面白カラスト思
ヒ聯盟等ヲモ全然相手ニシ居ラサル次第ナレハ此ノ點ハ日
本側モ充分御了解ノ上本件ノ和平解決ヲ見ル様御盡力アリ
タシト述ヘタルヲ以テ本官ヨリハ累次申入レ居ル我方主張
ヲ強調シ支那側英斷以外本件解決ノ途ナシト應酬シ置ケリ
支、北平、天津、滿へ轉電セリ

(付記)

北支交渉問題處理要綱*

方針

北支交渉問題處理ニ方リテハ北支停戰協定ニ基キ專ラ關東軍及其ノ友軍タル北支駐屯軍ヲシテ北支政權ヲ對象トシテ地方的ニ交渉ヲ促進セシメ成ルヘク迅速ナル解決ヲ期ス尙我租界内ニ於ケル胡白二氏ノ暗殺事件ニ關スル天津總領事ノ抗議ヲ側面ヨリ援助スル爲支那駐屯軍ハ關係排日團體ノ嚴重取締ヲ要求ス

要領

其一、支那駐屯軍竝北平武官ヲシテ北支政權ニ對シ左ノ如ク處理セシム

但現地ノ情勢ニ應シ之ニ即應セシムル如ク更ニ對策(註)別電合第四二二號參照ヲ講スルコト必要ナル場合アルコトヲ豫期ス

第二、要求事項

一、憲兵第三團、軍事委員會政治訓練所、事件關係國民黨部及排日團體ノ平津撤退竝之等團體責任者ノ罷免
二、于學忠ノ河北省主席罷免

第三、右要求事項貫徹ノ爲メ支那側ニ期限ヲ附シテ諾否ノ回答ヲ要求ス(註、同上)右回答期限ニ付テハ北支駐屯

軍交代兵上陸期日ヲ考慮シテ之ヲ定ム

第三、左記事項ヲ支那側ニ希望シ右要求回答ト同時回答ヲ促ス

一、平津地方駐屯ノ第五十一軍竝中央直系軍ハ保定以南

ニ移駐ス

三、天津地方ニ於テ國民黨部及藍衣社其他秘密團體ノ反滿抗日の一切ノ策動ヲ禁絶ス。今後策動ノ事實ヲ認ムルトキハ日本軍ニ於テ隨時適宜ノ處置ヲ講スルコトアルヲ承認ス

其二、本交渉ノ機會ヲ利用シ外務當局ニ於テ全支ニ亘ル排日の行爲ニ關シ支那側ノ反省ヲ促シ排日諸團體ノ解散ヲ促進シ其實質的轉向ヲ助長シテ日支懸案解決ノ爲メ有利ナル情勢ヲ展開スル如ク適當ノ處置ヲ行フコトヲ外務省側ニ對シ希望ス

其三、在支各地武官ハ前記交渉ニ對シ協力ス

編注 「北支交渉問題處理要綱」は、陸軍省が六月五日に原

案を作成し、翌六日、陸海外三省による協議、修正を経て決定された。本文書は外務省が同七日、關係在外公館にこれを通達した際の電報の本文部分と思われる。

297 昭和10年6月(7)日 在漢口三浦總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北での日本軍の要求に関する漢口漢字紙の

報道振りについて

漢口 發
本省 6月7日後着

第一四八號

華北問題發生後ニ於ケル當地漢字紙ノ報道振ハ極メテ簡單且地味ニシテ漢字紙一流ノ誇大曲筆の筆致ヲ用ヒス却テ我方ノ立場ヲ闡明スル聯合ノ漢字通信ノ方目立チ居ル位ナルカ其ノ論評振リモ極メテ消極的ニシテ例ノ黨部機關紙武漢日報カ珍ラシクモ日支好轉ノ今日双方ノ誤解ヨリ斯ル事件ノ發生ヲ見タルハ遺憾ナリトノ趣旨ノ短評ヲ試ミ其ノ他ノ新聞紙モ何レモ日支好轉云々ヲ骨子トスル同巧異曲ノ論評ヲナシ居レルハ注目ニ値ス

軍交代兵上陸期日ヲ考慮シテ之ヲ定ム

第三、左記事項ヲ支那側ニ希望シ右要求回答ト同時回答ヲ促ス

一、平津地方駐屯ノ第五十一軍竝中央直系軍ハ保定以南

三、天津地方ニ於テ國民黨部及藍衣社其他秘密團體ノ反滿抗日の一切ノ策動ヲ禁絶ス。今後策動ノ事實ヲ認ムルトキハ日本軍ニ於テ隨時適宜ノ處置ヲ講スルコトアルヲ承認ス

其二、本交渉ノ機會ヲ利用シ外務當局ニ於テ全支ニ亘ル排日の行爲ニ關シ支那側ノ反省ヲ促シ排日諸團體ノ解散ヲ促進シ其實質的轉向ヲ助長シテ日支懸案解決ノ爲メ有利ナル情勢ヲ展開スル如ク適當ノ處置ヲ行フコトヲ外務省側ニ對シ希望ス

編注 「北支交渉問題處理要綱」は、陸軍省が六月五日に原

右ハ事件ノ重大性ニ鑑ミ支那當局ニ於テ餘程掣肘ヲ加ヘ居ルニモ依ルヘケンモ一面我方主張ノ出發點ニ於テ相當ノ根據ト準備アリ且宣傳ニ於テ先手ヲ打チタルニ依ルモノト觀測セラル

支、北平、各總領事ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

298 昭和10年6月(7)日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

蔣介石の対日態度および華北に対する要求貫徹に関する磯谷武官の車中談について

北平 發
本省 6月7日後着

第一七四號(極秘)

本官發支宛電報

第二二一號

本野ヨリ

本官北上ノ途次同車セル磯谷武官ノ花谷武官等ニ對スル談話要領左ノ如シ

一、滿洲事變後既二三年以上經過シ居ルモ蔣介石ハ自己ノ野望達成ノ爲依然トシテ對日滿裏面工作ヲ改メサル處内外ノ情勢ニ鑑ミ今日ハ彼ノ政策ヲ是正シ其ノ具タル政治團體ヲ少クトモ華北ヨリ驅逐スル好時機ナリトモ認ム尤モ吾人ハ蔣自身ヲ倒スコトカ直接目的ニ非スシテ蔣ノ行ヘル政策ヲ不可トスルモノナリ然シ蔣ニシテ我要求ヲ容レンカ必ス失脚スヘシ

二、華北ニ對スル今回ノ要求貫徹ハ滿洲國承認工作ノ第一段ニ外ナラス(蔣ノ壓迫ニ依リ今日支那人カ表現シ得サル滿洲問題解決ノ要望ヲ可能ナラシムヘシ)

三、支那側ハ極力本問題ノ地方的局限ヲ欲シ居ルモ(例ヘハ千學忠ノ更迭等ニ依リ之ヲ解決セントシ居レリ)吾人ハ斷然之ヲ排撃シ中央ノ問題即チ蔣及南京政府ノ政策ノ是正ヲ目的トスヘシ

四、⁽²⁾從來ハ大ヲ要求シ小ヲ得ントシタル傾向アルモ今回ハ我要求ヲ全部貫徹スルヲ要シ之カ實現ニハ武力ヲ行使スト迄腹ヲ極メサルヘカラス(今ナラハ大軍ヲ動カサスシテ可能ニシテ武官ノ觀測ニ依レハ武力行使ハ天津軍ニテ可ナルヘキ趣ナリ)

覽ノ上ハ記錄ニ止メス御燒棄ヲ請フ

貴電合第四〇二號末段ニ關シ

當方面ノ狀勢ハ目下ノ處左シタル進展無キモ今後如何ナル事態ヲ生スルヤモ計ラレサルヲ以テ既ニ御承知ノコトトハ拜察スルモ現地ニ於テ各方面ト接觸シ居ル本官ノ觀察御參考迄申進ス

一、今回軍側ノ對支交渉ハ既報ノ通本官ノ質問ニ對シ酒井參謀長ハ關東軍ト打合ノ上關東軍及天津駐屯軍ヲ代表シテ行ヒタル旨言明シ居ルモ酒井等ノ本件交渉ハ梅津司令官新京出張ノ爲不在中ニ於テ行ハレタル事情(尤モ大體ノ協議ハ司令官出發前日ニ行ハレタルカ如シ)ニモ鑑ミ本件交渉ニ關スル内容カ關東軍及天津駐屯軍ニ於テ如何ナル程度迄協議決定ノ上行ハレタルモノナルヤ疑ハシキ點アル處各方面ノ情報ヲ綜合スルニ本件ハ主トシテ天津ニ於テ司令官出發前會合セル酒井及戰區事項ニ關スル關東軍代表儀我大佐(山海關特務機關長)、高橋北平武官、滿洲國軍政部員今田少佐等ノ間ニ協議決定セラレタルモノノ如ク現ニ梅津司令官ハ某知人ニ對シ北支ニ於ケル諸團體ノ反日又ハ「テロ」

五、尙要求貫徹ノ結果蔣カ失脚セサル時反動ハ必ス汪、黃一派ニ來リ彼等ハ一時失脚シ孫、宋之二代ルヘキハ致方無シ(尤モ彼等ハ時勢變リテ後日一層鞏固ナル地位ヲ得テ再ヒ政權ヲ握ルニ至ルヘシト附言セリ)

六、武官ハ前記ノ意見ヲ具申シ今回ノ出張許可ヲ稟請セル趣ナルカ中央ヨリ許可越セルヲ以テ自分ノ意見ニ異議無カルヘシト述ヘ居タリ

大臣、南京、天津ニ轉電セリ

299 昭和10年6月7日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求發出経緯ならびに軍側動向に関する觀察について

北平 6月7日後発
本省 6月8日前着

號外(館長符號扱)

⁽¹⁾本電ハ各關係者等ノ立場ニモ鑑ミ外部ハ素ヨリ省内ニ於テモ部下ノ不注意等ニ依リ漏洩スルカ如キコトアリテハ今後本官ト各方面トノ接觸上極メテ機微ノ關係アルヲ以テ御一

行爲等ノ一掃方ニ付支那側ニ對シ友誼的警告ヲ爲ス趣旨ノ決裁ヲ與ヘタルニ止マリ何等要求事項等ノ内容ニ付決裁ヲ與ヘタル次第ニ非サル旨語レル事實並ニ關東軍ニ於テモ當地武官ヨリ本件交渉顛末報告ニ依リ初メテ其ノ要求事項等ノ内容ヲ承知セルヤノ聞込モアルニ徴シ本件カ如何ナル程度迄天津軍及關東軍最高幹部ノ協議ヲ經タルモノナリヤ疑ハシキ次第ナルカ新京發永田軍務局長ヨリ陸軍次官宛電報ノ如ク天津軍及關東軍ノ内ニモ多少意見ヲ異ニスルモノアルニ拘ラス最早事態已ムヲ得サルモノトシテ前記天津ニ於テ會合セル武官等ニ引摺ラレ結局本件内容迄モ支持スルコトナレルモノト察セラレ

二、右ニ關シ本官及川越ニハ事前ニ於テ交渉内容ノ協議無カリシモ事後ニ於テ詳細ノ報告ヲ受ケタルコト既報ノ通ナルカ本官等モ其ノ交渉ノ目標ハ大體北支ニ於ケル複雑セル反日團體殊ニ河北省政府ヲ左右シ居ル張學良ノ勢力(南京政府殊ニ汪兆銘一派カ之ニ對シ全然無力ナルニモ鑑ミ)ヲ一掃セントスルニ在ルヲ以テ其ノ要求事項中ニハ所見ヲ異ニスルモノモ無キニ非サルモ大體時宜ニ適シタルモノト認メ別ニ進テ之ヲ阻止スル迄モ無ク寧ろ側面

ヨリ「モーラル、サポート」ヲ與ヘ居ル次第ナリ

三、⁽³⁾本件解決方針ニ付テハ軍側ニ於テモ意見必スシモ一致シ居ラサル様子ニテ各地駐在武官等ハ連日頻リニ相互間ニ電報ヲ往復シ意見交換ヲ行ヒ居ル模様ナルカ上海磯谷武官ハ本件ヲ以テ北支ノ地方的問題ニ止メス飽迄モ中央政府ノ責任問題トシテ蔣介石及黨部ニ肉迫セントスル意嚮ナル由ニシテ天津酒井參謀長ノ如キモ現ニ某海軍武官ノ質問ニ對シ本件ヲ擴大セントスル意嚮ナル旨ヲ言明シ又某記者等ニ對シ本件ハ結局蔣介石下野外遊迄行カサレハ收マラサルヘシト放言セル位ニシテ本件交渉ノ要點モ地方官ノ處分ノ如キハ枝葉ノ問題トシ結局蔣介石ノ二重政策及黨部ノ排撃ヲ主眼トスル中央問題ニ集注セント努メツツアリ尤モ當地高橋武官ハ本件ハ我方實力及ヒ易キ北支ノ問題トシテ一應解決スルヲ得策トシ全國的問題トスルハ尙早ナリトノ意見ヲ有シ居リ又天津軍司令官ハ軍事行動ヲ執ルカ如キコトハ考慮シ居ラスト語レル由ナルモ出先軍人ノ多クハ停戰區域ヲ一種ノ占領地類似ノ地域ト心得居ルヲ以テ何等カノ口實ヲ設ケ北平天津迄停戰區域ヲ延長セントスル計畫ニ軍中央部又ハ上官ヲ曳摺ラント

⁽¹⁾目下中央黨部内ニアリテ其ノ樞(機)ニ與リ居リ又舊郭松齡部下トシテ學良系トモ關係深キ齊世英ハ七日所用ヲ以テ南京ヨリ來滬シ昵懇ノ當館中田ニ對シ北支問題ニ付同人ノ忌憚ナキ意見ナレハ絶對ニ他ニ洩ラササル様致度シト前置シ大要左ノ通り内話セル趣ナリ

日本ハ表面日支親善ヲ口ニシ乍ラ其ノ實支那ノ統一即チ國民黨及蔣介石政權ノ強化ヲ喜ハス最近蔣ノ剿匪工作力漸次奏效シ國內統一ノ兆顯著ナルモノアルニ鑑ミ今回特ニ難題ヲ持掛ケ來リタルモノニシテ日本カ蔣介石ニ對シ其ノ要求一切ヲ容レ且日本ニ對スル其ノ態度ヲ一層明確ニスヘシト言ヒ居ルハ結局蔣ニ對シ日本ニ降伏スヘシト云フト同一ニシテ支那側トシテ實際忍フ能ハサル屈辱ナルカ強者タル日本ノ要求ナレハ弱者タル支那ハ總テ其ノ要求ニ應スルヨリ外ナク河北省黨部ノ撤廢等モ結局實行スルニ至ルヘシ目下何應欽等カ黨部ノ撤廢ハ困難ナリト言ヒ居ルハ黨部問題カ何等ノ權限外ニアル爲ニシテ

三 華北問題

⁽²⁾黨部内ニモ相當強キ反對アルモ黨部トシテノ腹ハ既ニ決シ居レリ日本カ何時カハ北支ニ對シスル難題ヲ持掛ケ來ルコトアルヘシトハ吾人ノ夙ニ豫想シ居タル所ナリ即チ支那人

工夫中ナルハ想像ニ難カラス當地武官ノ本官ニ語ル所ニ依レハ過日新京ニ於テ林陸相ハ關東軍ト協議ノ上今直ニ軍事行動ヲ起スノ意嚮ナキモ必要ノ場合軍事行動ニ出ツル事ニ同意セルヤノ趣ニモアリ其ノ間滿洲國軍政部系統ノ所謂北支獨立運動ノ手先等ハ此ノ機會ニ於テ日支人間ニ策動ヲ激成スルニ至ル事モ推測セラル同時ニ張家口領事累次ノ報告ノ如ク察哈爾方面ニ於ケル關東軍今後ノ活動モ注意ニ値ス

編 注 本電報は国立国会図書館憲政資料室所藏「憲政資料」

中の「牧野伸顯關係文書」より採録。

300 昭和10年6月(8)日 在上海石射総領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北での日本軍の要求を非難した国民党要人
齊世英の内話について

上海 発
本省 6月8日後着
第一八一號

中或一派ハ北支ヨリ國民黨及蔣介石ノ勢力ヲ驅逐セムトシ不斷ニ策謀ヲ續ケ來リタル次第ナルカ彼等カ日本軍部ニ覬ラントスルハ何人ト雖モ想像スルニ難カラス今ヤ日本軍部ハ彼等ニ代リ其ノ欲スル所ヲ行ハントシツツアルモノニシテ北支ニ新北洋派天下ノ出現ヲ見ルニ至ルヘキハ明カナリ日本ハ蔣介石ノ二重外交ヲ非難シ居ルモ支那ヨリ見レハ日本コソ二重外交ノ最タルモノナリ大使交換ノ虛禮發表ト共ニ直ニ斯ル要求ヲ提出ス支那ヲシテ日本ヲ信セヨト云フモ到底不可能ナリ支那人内心ノ對日惡感情ハ今後一層深刻化スルノミナルヘシ現ニ一部ニハ日本ハ各國公使館區域ノ北平ニ存在スルコトハ北支ニ對スル其ノ野心遂行上何カト不便多キ爲

⁽³⁾先ツ自ラ率先對支昇格ヲ行ヒ列國ヲシテ之ニ追從セシメ聽テハ公使館區域ヲ南京ニ移轉セシメムトスル遠謀アリトノ說ヲ爲スモノスラアル次第ナリ

更ニ日本側ハ藍衣社ノ撤廢ヲ要求シ居ルモ斯ル秘密結社ハ斷シテ存在セス蔣ハ目下軍權ヲ掌握シ黨部ヲモ其ノ藥籠中ノモノト爲シ居レリ何ヲ苦ンテ黨中更ニ黨ヲ作り結局自己勢力ノ分散ヲ爲スカ如キ愚ヲ爲サンヤ藍衣社ナル語ハ嘗テ

北平黨部政治ノ訓練員劉健群^(電)ナルモノカ國民黨モ伊國ノ「フアシスト」ニ倣ヒ黨組織ヲ改メ制服ヲ一定スヘキコトヲ提唱セルカ誤傳セラレタルモノニシテ支那人中ニモ其ノ存在ヲ信シ居ルモノアリ又一部ニハ共產黨員取締ノ任務ヲ帶ヒ中央黨部ヨリ各地ニ派遣セラレシ或ル特務員ト混同シ居ル向アルカ如キモ自分ハ黨部員トシテ絶對ニ其ノ存在ヲ否定スル次第ナリ云々
(極秘ニ請フ)
支ヘ轉報セリ

301 昭和10年6月10日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らが要求事項を全面承諾するよう
何応欽に強く申入れについて

北平 發
本省 6月10日前着

第一七七號(至急、極秘扱)

九日酒井參謀長及高橋補佐官ハ何應欽ヲ訪問シ酒井ヨリ前
回申入ノ趣旨ヲ繰返シ本件交渉ノ根本義ハ蔣介石ノ誤マレ

以上ノ次第ナルヲ以テ我方ヨリハ要求ニ回答期限ヲ附スル
必要ナキニ至レル趣ナリ

支、天津、南京、濟南、青島、漢口、廣東、福州ヘ轉電セ
リ

302 昭和10年6月10日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求に対し何應欽が全面承諾
の旨回答について

北平 6月10日後発
本省 6月10日後着

第一八〇號(至急、極秘扱)
往電第一七七號ニ關シ

本十日午後何應欽ハ高橋補佐官ニ對シ中央ノ訓令ニ依ル趣
ヲ以テ我軍側ノ要求ヲ全部容レ左ノ如ク回答セル趣ナリ
一、河北省内黨部ノ撤退ニ關シ十日命令ヲ發シ即日開始ス
ニ、第五十一軍移駐ハ十一日ヨリ鐵道輸送ヲ開始シ六月二十
五日頃終了ノ豫定
三、中央軍第二十五師及第二師ヲ河北省外ニ移駐セシムルコ

ル政策ニ基ク弊害ヲ一掃シ其ノ根本政策ヲ是正セントスル
ニアルヲ以テ其ノ政策ヲ變更セサル限り今回ノ如キ交渉ハ
際限ナク續發スルニ至ルヘキ旨ヲ力説シタル上既ニ提出セ
ル申入事項ノ實行狀況ヲ遂^(電)一點檢シ往電第一七〇號處分ノ
外憲兵第三團及政治訓練所ノ撤退ヲ命シタルコト兩國國交
ヲ害スル惧アル秘密機關ニ付テハ關係筋ニ對シ取締ヲ嚴ニ
シ存在セシメサル様既ニ訓令セルコト並ニ于學忠ノ罷免及
其ノ部下ノ第五十一軍ノ移駐ヲ開始セルコトヲ確メ殘ル事
項即チ黨部及中央軍第二及第二十五師ノ撤退ニ付テハ中央
ノ所管ニ屬スル故ヲ以テ何應欽ニ於テ頗ル難色アリタルモ
酒井ハ我方ノ要求ハ絶對的ノモノニシテ十二日ニハ天津ニ
於テ軍關係者會合ノ筈ニモアリ右ハ撤退ノ能否ヲ論スルニ
非スシテ其ノ實行期日ノ問題ナリト迫リ何應欽ハ兎ニ角中
央ニ請訓シタル上十二日迄ニ回答スヘシト答ヘ尙五十一軍
ノ移駐ハ十一日迄ニ天津東部ヨリ撤退更ニ七日内ニ北寧沿
線ヨリ撤退スルコトニ定メ一箇月内ニハ河北省外ニ撤退ス
ヘシト何ヨリ申出テタル處酒井ハ斯テハ長過キル故其ノ期
間ヲ短縮センコトヲ主張シ結局何ヨリ鐵道輸送力等ヲ調査
シタル上通報スヘシト答ヘタル趣ナリ

トニ決定ス

四、國民政府ハ全國ニ排外排日ノ禁止ヲ命ス
本件回答發表方ニ關シテハ高橋補佐官ヨリ天津軍ト打合セ
タル上之ヲ爲ス筈ニ付本電發表ナキ様御取計ヲ請フ
支、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ヘ轉電セ
リ

303 昭和10年6月12日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求に対する中国側の履行状
況について

北平 發
本省 6月12日後着

第一八五號

北支問題關係支那軍隊及黨部其ノ他各機關ノ撤退ニ關シテ
ハ去ル八日軍事分會所屬ノ政治訓練處ノ廢止並ニ憲兵第三
團ノ撤退ヲ見タルカ當館警察ノ取調並ニ憲兵隊側ノ情報ニ
依レハ其ノ後ノ狀況左ノ通
一、天津附近駐屯ノ五十一軍ハ九日軍事分會ヨリ三日以内ニ

楊村ニ集合シ陝西省ニ向ヒ出發スヘキ旨命令ヲ受ケタル趣ナリ

尙十日漢字紙ノ報道ニ依レハ于學忠ハ九日來平ノ折新聞記者ニ對シ剿匪司令部ハ之ヲ陝西省鳳翔縣ニ設ケ陝西駐屯ノ高桂滋、井岳秀、楊耀芳等ヲモ其ノ指揮下ニ置ク事トナレル旨語レル趣ナリ

三、北苑駐屯ノ第二十五師ハ十一日ヨリ引揚ケヲ開始シ安定門驛ヨリ荷物ヲ積込ミ軍隊ノ一部ハ徒步ニテ長辛店方面ニ向ケ移動シツツアリ又南苑駐屯ノ第二師モ既ニ北平撤退ノ命令ヲ受ケ今明日中ニ移動ヲ開始スル模様ナリ
右ニ關シ本日ノ漢字紙ハ軍事分會ノ命令ニ依リ第二十五師ハ陝西ニ第二師ハ河南、安徽ノ省境ニ移動シ共匪討伐ニ當ル事トナリタル旨報道シ居レリ

三、河北省黨部北平市黨部ハ十日以來工作ヲ停止シ居レルカ職員ハ續々南下シ現ニ事務所ハ閉鎖セラレ居レリ
右ニ關シ本日ノ漢字紙ハ黨務經費節約ノ爲中央執行委員會ノ決議ニ依リ河北省黨部並ニ北平、天津兩市黨部ヲ廢スル事トナリタル旨報シ居レリ

四、勵志社北平分社ハ八日以來標札ヲ撤去シ門ヲ鎖シ居レリ

種工作實施上面白カラサルハ御承知ノ通ナル處今回關東軍ニ於テハ之ヲ同省ヨリ撤退セシムル事ニ決シ最近北平ニ向ヒタル土肥原少將ニ對シ別電ノ如キ不法行為アリタルノ理由ヲ以テ最小期限内ニ同軍ノ黃河以南ニ撤退要求方ニ關シ北支駐屯軍及北平武官ト協議ノ上善處スル様十一日電報セリ

本電別電ト共ニ北平、天津、南京、支ヘ轉電セリ

(別電)

新 京 6月12日午後
本 省 6月12日後着

第五五七號

客年十月ノ張北事件(池田書記生侮辱事件)ノ際我方抗議ニ對シ將來斯ル事件ヲ發生セシメスト公約シタルニ拘ハラシ今回客月三十一日善隣協會「トラツク」ニテ多倫ヲ出發セル阿。巴。嘎。特務機關員大月桂、大井久、山本信親外一名計邦人四名ヲ五日張北ニ於テ第百三十二師司令部内物置ニ不法監禁シ歩哨ハ相互ノ談話ヲ禁シ青龍刀、銃劍ヲ擬スル等ノ脅迫ヲ加ヘ食事、寢具ヲ與ヘス翌六日午前十一時漸ク釋放

尙政治訓練處ノ宣傳機關ト目セラレ居リシ「北方日報」ハ停刊トナリ東北救亡會ハ工作ヲ停止シ「東北旬刊」モ亦停刊トナリタルカ東北大學其ノ他東北系諸學校モ夏期休暇後ハ漢口ニ移轉開校スル豫定ナリトノ噂アリ
支、南京、天津、漢口、青島、濟南、福州、廣東ヘ轉電セリ

304 昭和10年6月12日 在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

關東軍が宋哲元軍に對し張北での不法行為を理由に黃河以南への撤退方要求を決定し北平出張中の土肥原特務機關長に措置方訓令について

別 電 六月十二日發在滿州国南大使より広田外務大臣宛第五五七号

張北での宋哲元軍の不法行為について

新 京 6月12日午後
本 省 6月12日後着

第五五六號(極秘)

宋哲元軍ノ察哈爾省ニ存在スル事ハ同方面ニ於ケル我方各

シタル事實アル處右ハ宗哲元ノ參謀長命令ニ依リタルモノニシテ訊問其ノ他ノ侮辱行為ハ軍法處長自ラ之ニ當リタルモノナリ

305 昭和10年6月13日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求を全面承諾した何応欽に對し高橋武官補佐官が回答を文書化するよう要求したとの情報について

南 京 發
本 省 6月13日午後着

第五七一號

本十三日唐有壬ノ爲セル内話左ノ通
昨日ノ中政會議ニ於テ汪兆銘ヨリ華北問題ニ關スル九日以來ノ何應欽報告ニ付説明シ更ニ右ノ次第ヲ自分ヨリ直接蔣介石ニ傳フルコトトナリタルモ結局蔣ニハ電報ヲ以テ報告スルコトトナレリ
又確ナル情報ニ依レハ十一日高橋武官ハ何應欽ノ回答ヲ文書ニ認ムヘキ旨要求シ且附帶條件トシテ天津市政府ノ人事

ニ關シ新ナル要求ヲ提出セル趣ニテ何モ措置ニ窮シ居リ中政會議ニ於テモ種々質問出テ紛糾ヲ見タリ(十三日「マクダニエル」ハ外交部、黨部方面ヨリ得タル情報トシテ右會議ニ於テ日本軍部ノ壓迫ハ將來モ繼續セラルヘキニ付此ノ際蘇聯トノ提携方慎重考慮スヘシトノ議論出テシ由本官ニ内話セリ)

支、北平、天津、滿へ轉電セリ

306 昭和10年6月13日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

何應欽が南京に向け北平を出発し再び帰任する意向はないとの情報について

北平 発
本省 6月13日後着

第一八六號

何應欽ハ中央ニ對スル北支問題經過報告ノ爲急遽十三日早朝特別列車ニテ當地發南京ニ向ヒタル趣ニテ告別ノ爲代理ヲ本官ノ許ニ遣シタルカ何ハ今後交渉ノ苦境及今後察哈爾方面問題ニ關スル紛糾等ニ鑑ミ且身邊ノ危險甚タシク再ヒ

井中佐ヨリ嚴重抗議シ十一日宋ノ代表トシテ秦德純ヲ呼寄セ要求條件ヲ提示シタル上五日以内ニ回答無キ時ハ我軍ニ於テ自由行動ヲ執ルヘシト通告シタル趣ノ處翌十二日朝ニ至リ秦ハ省政府幹部ノ家族殆ト全部ヲ同伴専用車ニテ北平ニ赴キタル由尙當時秦ハ極メテ憔悴シ居タル點ヨリ見テ支那側内部ハ相當動搖シ居ルモノト察セラル又兩三日來當地軍隊カ盛ニ東北方ニ移動シツツアル事實モアリ右ハ密カニ日滿軍ノ進撃ニ備ヘツツアルモノナリト市中ニ謠言蜚語盛ナリ

308 昭和10年6月14日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

何應欽南下の真相について

北平 発
本省 6月14日前着

第一八九號

軍側ヨリ今次北支交渉ニ於テ支那側ノ同意セル諸事項ヲ文書ニスルコトヲ何應欽ニ要求シタル爲支那側ニ於テハ一大衝動ヲ起シ居ル旨支那側ヨリ傳ハリタル處右ニ關シ當方ニ

北上スル考ナク鮑文樾ヲシテ臨時代理セシムル趣ナリ
支、南京、天津、濟南、青島、漢口、福州、廣東、張家口、滿ニ轉電セリ

307 昭和10年6月13日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

松井張家口特務機關長が張北での宋哲元軍の不法行為を追及した期限付き要求を秦德純察哈爾省民政厅长に提示について

北平 6月13日後発
本省 6月14日前着

第一八七號

張家口發本官宛電報

第八號

大臣へ轉電アリタシ

第一一號

華北事件以來宋哲元下野要求說等ニテ當地人心動搖ノ徵アリタル折柄六月六日張北縣ニ於テ第三百三十二師ノ兵ノ爲ニ我特務機關員抑留訊問セラレタル事件アリ之ニ對シ當地松

對シテハ軍側ヨリ豫メ打合セ無ク不明ナリシヲ以テ館員ヲシテ其ノ眞否ニ關シ高橋武官ニ尋ネシメタル處同武官ノ内話スル所ニ依レハ十一日武官ヨリ何應欽ニ對シ右要求ヲナシタルハ事實ナルカ列記事項中河北省及市ニ於テ官吏ヲ任命スルニ當リテハ日支關係ヲ不良ナラシムルカ如キ人物ヲ登用セサルコトナル一項(過般ノ交渉ニ於テ口頭ニテハ既ニ何應欽ノ同意セル所ナル由)ニ付何應欽ハ右ハ中央ニ請訓スル要アリトテ本件文書ニ署名スルコトニ難色アリタル由ナルカ右署名ニ至ラスシテ往電第一八六號ノ通り南下セル次第ナル趣ナリ

支、南京、天津へ轉電セリ

309 昭和10年6月14日 在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

張家口での松井特務機關長抗議振りについて

新京 6月14日後発
本省 6月14日後着

第五六八號(極秘)

往電第五五六號ニ關シ

十三日張家口特務機關ヨリ軍ニ達シタル報告ニ依レハ同特務機關ハ十一日午後宋哲元ニ對シ嚴重抗議ヲ爲シ五日ノ期限ヲ以テ陳謝、責任者ノ處罰及將來ノ保障ヲ求ムルト共ニ最近ノ北支情勢ヲ述ヘ此ノ機會ニ斷然中央ト絶チ親日滿ニ轉向スル模様アラサレハ宋モ亦于學忠同様ノ運命ニ陥ルコト無キヲ保シ難キ旨ヲ仄カセル趣ナリ

310 昭和10年6月16日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

喜多參謀本部支那課長より何應欽に對し酒井
參謀長らの要求事項履行に關する同意書提出
方要求について

南京 6月16日後發
本省 6月17日前着

第五八五號

往電第五八一號ノ一二關シ

十六日喜多大佐ヨリ何應欽ニ對シ書面ニ依リ一々承認ノ形式ヲ取ルハ困難ナルヘキモ簡單ニ酒井參謀長ヨリ申入ノ件ハ承認シ誠實ニ實行スヘキ旨書面ニスルコト位ハ如何ト述

リ

ニ、宋哲元軍ハ約六萬ニ達シ居ル處中央トシテハ之ヲ他ニ移駐セシメ中央軍ヲシテ代ラシメタキ意嚮ナルモ大軍ナル爲右早急實現ハ困難ナリ
支、北支、天津、滿ヘ轉電セリ

312 昭和10年6月18日 在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

華北における日本軍の要求に關し板垣大使館付
武官が在奉天英國總領事の照会に回答について

新京 發
本省 6月18日後着

第五七六號

昨十七日在奉天英國總領事「バトラー」本使ヲ來訪セルヲ以テ板垣武官代ツテ面會シタル處「バ」ハ北支ニ於ケル情勢特ニ

(一)日本軍部ハ支那側ノ態度ニ満足シ居レルヤ
(二)日本側ノ要求ハ事實上北平、天津及河北一帯ヲ非武裝地帶ト化スルモノニ非サルカ

ヘタルニ對シ何ハ何レ相談スヘシトテ餘リ難色ヲ示ササリシニ依リ此ノ位ニテ取纏方天津軍司令官ニ電照セル趣ナリ

311 昭和10年6月17日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

酒井參謀長らの要求事項の履行および文書化
に關し中国側事情を唐有壬説明について

南京 發
本省 6月17日前着

第五七九號

往電第五七一號ニ關シ

昨十五日南下セル何應欽並ニ內政部長ニ就任ノ爲本朝來寧セル黃郛トモ會談ノ結果ナリトテ本日唐有壬來訪本官ニ語レル所左ノ通

一、文書ヲ以テ要求ヲ承認スヘシトノ日本側主張ニ關シ何ハ中央カ右ニ同意セサルニ於テハ歸北シ得サル旨申述ヘ政府モ困窮シ居レリ支那側ハ約束實行ノ誠意ヲ充分ニ有シ居ル次第ナレハ蔣駐日武官ヨリ口頭ヲ以テ陸軍側ニ對シ要求承認ノ旨再確認スルコト一法ナラスヤト私考シ居レ

(三)北支自治運動擡頭セル由ナルカ之ニ對スル日本軍ノ態度如何

等ニ付質問セルヲ以テ板垣武官ハ軍司令官ノ意ニ基キ

(一)支那側ハ去ル十日日本軍ノ要求全部ヲ容レタルヲ以テ今

後ハ支那カ誠意ヲ以テ實施スルヤ否ヤヲ注視スルノミ

(二)非武裝地帶ヲ擴大セントスルカ如キ意嚮全然無ク現ニ商

震等ノ軍隊殘留シ居レリ

(三)自治運動云々ニ付テハ未タ公報ニ接シ居ラサルカ孰レニ

セヨ日本軍ハ支那ノ內政ニ干涉セントスルモノニ非サル

カ故ニ斯ル運動ハ日本軍ノ關知スル所ニ非ス

トノ趣旨ニテ應酬シ尙先方ノ質問ニ應シテ蘇滿東部國境最近ノ情勢等ニ付テハ適宜説明シ置キタル趣ナリ(委細郵送ス)

尙本十八日在奉天米國總領事「バランタイン」當館來訪ノ際守屋參事官及關東軍石本參謀ト會見北支ノ一般情勢ニ付聴取スル所アリタリ
英、奉天ヘ轉電セリ

313 昭和10年6月19日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

津浦・平漢沿線の中國側撤兵状況偵察計画に
關し支那駐屯軍より内報について

青島 發

本省 6月19日後着

第一〇二號(極秘)

往電第九五號ニ關シ

十七日午後天津駐屯軍ヨリ當地陸軍配屬將校高橋中佐ニ對シ軍ハ日滿航空會社ノ商業機三臺ヲ軍用機ニ裝ヒ津浦、平漢沿線ヲ偵察セシメ撤兵狀態ヲ監視スル計畫(實ハ寫眞撮影カ目的ヲシキ由)ニテ或ハ青島飛行場ニ不時着陸スルコトアルヘキ旨電報アリタル趣同中佐ヨリ本官ニ内報シ來レル處右ハ豫メ中國官憲ノ承諾ヲ取付クル筋ノモノニ非スト認メ其ノ時ノ模様ニ應シ善處方不取敢海軍側トモ打合濟ナルカ其ノ場合ニハ時局柄自然相當「センセーシヨン」ヲ起シ他地方ニ誇大ニ報道セラルルコト無キヲ保セスト存セラ
ルルニ付豫メ御含置キアリタシ
支ヘ轉電セリ

314 昭和10年6月19日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北情勢に關する何應欽との意見交換について

南京 發

本省 6月19日後着

第五九九號(極秘)

往電第五八一號ニ關シ

十八日何應欽ノ本官ニ對スル内話左ノ通
一、河北問題ニ關シ往電第五八五號喜多大佐申入程度ノコトハ支那側ニテ目下考慮中ナリ
二、察哈爾事件モ關東軍ノ強硬ナル申分モ有ルヤニテ此ノ儘ニテハ土肥原少將邊ヨリ又復要求ヲ提出セラルルコトアルヘキヲ慮リ前以テ自發的ニ承認スルコト然ルヘクト認メ本十八日ノ行政院會議ニテ宋哲元ノ察哈爾省主席及第廿九軍長ノ職ヲ免シ秦民政廳長ヲシテ主席ヲ代理セシムルコトトシ宋ハ何レ他ニ轉職セシムル筈トナリ又張北ノ百三十二師ハ南下(何處迄カハ未タ決セス)セシムルコトトナレリ
三、北ニハ中央軍モ無ケレハ何レ省政府主席任命ノ上ハ自分

き旨唐有壬へ申入れについて

南京 發

本省 6月19日後着

第六〇〇號(極秘)

郭泰祺、施肇基等カ英、米政府ニ對シ九國條約ニ引掛ケ北支問題ニ關スル申入ヲ爲シタリトノ新聞報道ニ關シ十九日唐有壬ニ對シヨモヤスル事實ハアルマシト探リ見タル處唐ハ實ハ北支問題交渉ノ經緯ハ一切秘密ニ附シ居タル爲各方面ニ疑惑ヲ起シ殊ニ莫斯科ノ如キハ飛ンテモ無キ想像ヲ逞フシ居ル様子ナリシニ付英、米、獨、佛、露等主要國駐在使臣ニ對シ真相ノ大體ヲ通報シ之ヲ任國政府ニ内報ノ上誤解無カラシメンコトヲ期スヘシト訓令シ置キタル迄ナレハ九國條約等ニ付テハ何等ノ話合モ無ク右ニ關シテハ既ニ郭泰祺ヨリモ新聞報道ヲ打消シ越シ居ル程ナリト答ヘ且當地ニテハ「カドガン」ノ如キハ毎日熱心ニ經過ノ内報ヲ求メ越シ居ルニ付大略ノ真相ハ話シ置キタリト述ヘタルニ付本官ヨリ内報ノ程度ハ知ラサルモ此ノ種事項ノ取扱ニ付テハ時局柄充分ノ注意ヲ加フル要アルヘキ旨篤ト申聞ケ置キタリ御參考迄

315 昭和10年6月19日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北問題に關する列國への説明は慎重にすべ

ニ於テ歸任スル必要モ無キヤニ認メラルルモ懸念ニ堪ヘサルハ反動的ニ華北方面ニ共產黨ノ跋扈ヲ來ササルヤノ點ナル處右ニ付テハ今後共日本側ト諒解ヲ遂ケ共同防衛ノ措置ヲ執リタキ次第ナリ
四、以上何ノ談話ニ對シ本官ハ支那カ大局ニ覺醒スル事必要ニシテ具體的ニ日支ノ經濟合作ヲ實現スルト共ニ共同シテ好マシカラサル外國ノ發展(例ヘハ共產黨ノ跋扈ニ備フルノ要アル處其ノ實ヲ舉ケンカ爲ニハ先ツ北方内蒙方面ニ前記合作ノ鐵道ヲ敷設シ(六月四日附機密第四二四號參照)沿線ニ牧畜、棉花等ノ產業ヲ開發スルノ急務ナルヲ力説セル處何ハ自分モ密カニ京綏線ヲ内蒙方面ニ延長スルノ急務ナルヲ考ヘ居タル矢先ナレハ御意見ノ次第ヲ參酌シ其ノ内中央關係當局トモ研究シ見ルヘシト答ヘタリ
支、北平、天津ヘ轉電セリ

支、北平へ轉電セリ

316 昭和10年6月21日 広田外務大臣より
在中国有吉大使宛(電報)

華北要求事件に關し我が方声明の發出決定に
ついて

別電一 六月二十一日發広田外務大臣より在中国有吉

大使宛第一六八號

支那駐屯軍司令官声明文

二 六月二十一日發広田外務大臣より在中国有吉

大使宛第一六九號

在中国大使声明文

本省 6月21日發

第一六七號

今般陸軍トノ間ニ天津軍司令官ニ於テ別電第一六八號又貴
大使ニ於テ別電第一六九號ノ「ステートメント」ヲ出スコ
トニ打合セタルニ付司令官聲明發出(宋哲元側カ察哈爾事
件ニ對スル軍ノ要求ヲ正式ニ受諾シタル上發出時期ニ付天
津軍ヨリ貴方ニ打合セノ筈直後時機ヲ逸セス右別電ノ通

聲明セラレ度

別電ト共ニ南京、北平、天津ニ轉電セリ

(別電二)

本省 6月21日發

第一六八號

北支及察哈爾ニ續發セル一部支那官民ノ不法行為ニ對スル
交渉ニ關シ幸ニモ支那軍憲我公明ナル要求ヲ受諾シ將ニ其
ノ履行ヲ見ントシアルハ同慶ノ至ニシテ其ノ誠意ヲ認メ暫
ク確約實行ノ推移ヲ注視シ局面ノ好轉ヲ期待セントス
抑々今次交渉ニ際シ我軍要望ノ主眼トセルハ炳乎タル停戰
協定ノ條章ト儼乎タル彼我軍憲ノ誓約トニ照鑑シ之カ違犯
ノ責任ヲ糾彈シ、攪亂ノ禍根ヲ芟除シ、互ニ信義ヲ重シシ、
和平ニ努メ以テ北支ニ於ケル事態ノ康寧ヲ期シ惹テ滿洲ニ
對スル脅威ト日支親善ノ障礙トノ除去ニ資セントスルニ在
リ苟モ徒ニ事態ヲ擴大シ若クハ妄ニ内政ニ干與セントスル
カ如キハ斷シテ考慮シアラサリシ所ナリトス
惟フニ日支、眞ノ親善提携ハ帝國文武官民ノ齊シク希望ス
ル所ナルモ此事タル單ナル表面的形式的辭令ノミヲ以テハ

到底庶幾シ得ヘキ所以ニ非シテ這次表面化セル不祥事件ノ
如キ其ノ淵源スル所深キモノアルヲ想見セシムルハ遺憾ニ
堪ヘサル次第ナリ、然ルニ過日國府更メテ全支排外排日禁
絶ノ布告ヲ發シタルハ敍上禍根ノ排除ニ一步ヲ進メタルモ
ノトシテ慶スヘク其ノ一時的便法ニ止マラサランコトヲ冀
フ特ニ帝國ニ於テ既ニ其ノ獨立ヲ承認支持セル滿洲國ト共
同防衛ヲ全ウスヘク將又接滿地域ニ於ケル治安ノ維持ニ重
大ナル關心ヲ有スル日本國軍ノ立場トシテハ尠クモ同地方
ノ各方面ニ於テ爾今一切ニ亘リ抗日反滿行為ノ絶滅セラレ
ムコトヲ庶幾シテ已マサルナリ

右聲明ス

(別電二)

本省 6月21日發

第一六九號

一、這同北支及察哈爾事件ニ關シ帝國軍憲ハ停戰協定等ニ基
キ支那軍憲ニ對シ公正ナル要望ヲ提出セル處支那軍憲ニ
於テ該要望ヲ容レ事態好轉ヲ見ツツアルハ同慶ノ至ナリ
今次支那駐屯軍司令官ノ聲明ニ於テモ期待セラレアルカ

如ク支那側ニ於テ此ノ上共當該方面ノ和平維持ニ努力セ
ラレムコト希望ニ堪ヘス

ニ、尙日支兩國國交ノ圓滿ヲ期セムカ爲ニハ單ニ地方的ニ止
マラス全支ニ亘リ排日風潮ノ一掃ヲ期スルノ要アル處今
日未タ該風潮絶滅ノ域ニ達セス吾人ハ此ノ機會ニ改メテ
支那側ニ於テ今回發布ノ邦交敦睦令等ヲ充分ニ活用シ排
日風潮ノ禁絶ニ今一段ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ切實ニ要
望スルモノナリ

317 昭和10年6月21日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

宋哲元の察哈爾省主席免職に關する秦德純の
内話について

北平 發
本省 6月21日後着

第一九七號

張家口發本官宛電報

第九號

大臣へ轉電アリタシ

第一二號

察哈爾問題ニ付天津ニ於テ我軍部ノ諒解取付ニ奔走中ナリ
シ秦德純ハ十九日歸任同日宋哲元ハ天津ニ向ケ出發シタル
カ秦ハ宋ノ免職ニ付單ニ中央ヨリノ内命ニ接シタルハ事實
ナリトノミニテ多クヲ語ラス自分ハ當分主席代理トシテ當
地ニ止マル積リナリト語レリ目下ノ處支那側軍隊並ニ市中
一般ニ冷靜ナリ
支、南京、天津へ轉電アリタシ

318 昭和10年6月21日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

何應欽の同意書は条項列記形式を断念し單に
自主的な実行を約する通知書とする方針を軍
側決定の情報について

北平 發
本省 6月21日後着

第一九八號(極秘扱)

往電第一八九號及南京發閣下宛電報第五八五號ニ關シ
何應欽ノ同意書取付方ニ關シ其ノ後喜多大佐天津軍及高橋

電報括弧内ノ趣旨ヲ「九日酒井參謀長申入ノ各事項ハ自主
的ニ之ヲ實行シ未タ實行完了セサルモノハ七月十日ヲ以テ
實行ヲ終ルヘシ」旨ノ書面ヲ提出スルコトナリ目下同武
官ヨリ請訓中ノ由ナルカ右ニ決定ノ上ハ鮑文樾ヲシテ何ヨ
リノ書面トシテ天津軍司令官ニ送付セシムルコトナリ居
レル趣ナリ
支、北平、天津へ轉電セリ

320 昭和10年6月24日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

土肥原奉天特務機關長が秦德純察哈爾省主席
代理に対し宋哲元軍の移駐等要求について

北平 6月24日後發
本省 6月24日後着

第二〇四號

察哈爾問題處理方ニ關シ來平中ノ土肥原少將ハ二十三日夜
松井中佐及高橋武官ト共ニ秦德純ト會見シ大要
一、宋哲元軍ヲ概ネ停戰協定線(昌平延慶ノ線)ノ延長線以西
ニ撤退セシムルコト

武官等ノ間ニ於テ協議ノ結果今次交渉ノ支那側約束事項ヲ
列記スルコトハ見合ハスコトニ決シ支那側ノ面上承諾ヲ
容易ナラシムル爲單ニ概括的ニ「去ル九日軍側ヨリ何應欽
ニ申入ノ事項並ニ右附帶事項ハ支那側ニ於テ承認シ自主的
ニ之ヲ實行スルモノナル」旨ノ通知書ヲ何應欽ヨリ天津軍
司令官ニ提出セシムルコトニ方針決定シタル趣ニテ二十一
日高橋武官ハ鮑文樾^(編)ニ面會シ右趣旨ノ何應欽ノ書面提出ヲ
求メル旨ノ申入ヲ爲シタリ右ニ對シ鮑文樾^(編)ハ右趣旨ニ異存
無キヲ以テ直ニ何應欽ニ取次クヘシト答ヘタル趣ナリ
支、南京、天津へ轉電セリ

319 昭和10年6月22日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

何應欽提出予定の同意書内容について

南京 發
本省 6月22日後着

第六一八號(極秘)

北平發貴大臣宛電報第一九八號ニ關シ
其ノ後雨宮武官ヨリ何應欽及唐有壬ニ對シ交渉ノ結果冒頭

ニ、察哈爾省ヨリ憲兵隊、國民黨部及藍衣社ヲ撤退セシメ排
日行爲ヲ禁止スルコト
三、右二及三ハ二週間以内ニ實行ヲ了スルコト
四、張北事件ニ關シ謝罪シ直接責任者ヲ處罰スルコト
ノ申入レヲ爲シタル處秦ハ中央ニ請訓ノ上回答スヘキ旨ヲ
約シタル趣ナリ右我方ノ要求事項ハ絕對極秘ニ附セラレタ
キ軍側ノ希望ニ付右様御含アリタシ

321 昭和10年6月24日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北要求事件に関する我が方声明の發出は中
國軍撤退完了後としたき軍側意向について

天津 發
本省 6月24日後着

第一六七號

本官發支宛電報
第八〇號
外務大臣發貴大使宛電報第一六七號ニ關シ(北支事件ニ關
スル天津軍司令官及在支大使ノ聲明)

天津軍ニテハ司令官聲明ハ今少シ時機ヲ見ルコト然ルヘシト考ヘ居リタル處北平高橋武官モ同意見ナリシニ付聲明發出ハ中央軍撤退ノ完了(大體七月十日頃ノ見込)ヲ俟ツテ之ヲ爲スコト然ル可キ旨中央ヘ意見上申セル趣ナリ御含迄大臣、南京、北平ヘ轉電セリ

322 昭和10年6月27日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

土肥原特務機關長提出の要求事項を秦德純が
全面承諾について

北平 6月27日後発
本省 6月27日後着

第二一四號

往電第二一號ニ關シ

二十七日秦德純ヨリ土肥原少將ニ提出セル文書回答ノ内容大要左ノ如シ

- 一、張北事件ニ關シ遺憾ノ意ヲ表シ責任者ヲ免職ス
- 二、日支國交ニ不良ノ影響ヲ及ホスト認メラルル機關ヲ察哈爾省ヨリ撤退ス

土肥原ノ本官ニ對スル内話ニ依レハ支那側承諾事項第三項(日本側ノ察哈爾省ニ於ケル正當ナル行為ヲ尊重ス)ノ解釋トシテ土肥原秦德純間ニ口頭ヲ以テ約束セル支那側ノ承諾事項主要ナルモノ左ノ如シ

- 一、察哈爾省ニ於テ飛行場及無線電信設置ヲ許スコト
- 二、山東、山西移民ノ察哈爾入境ヲ阻止スルコト(同移民カ蒙古人ノ産業ヲ壓迫スルヲ救フ爲)
- 三、張家口ノ德華洋行ノ事業ヲ漸次立チ行カサル様仕向クルコト(同洋行ヲ通シテ同方面ニ進出セル赤露ノ關係ヲ一掃スル爲)

四、察哈爾省ニ日本人ヲ軍事又ハ政治顧問ニ僱聘スルコト(差當リ松井中佐ヲ無給ニテ名譽軍事顧問ニスルコトニ打合濟ミ)

五、内蒙ニ於ケル我方ノ德王ニ對スル工作ノ如キモノヲ阻止セサルコト

右ニ付土肥原ノ語ル所ニ依レハ今回ノ交渉ハ特ニ非戰區域ト爲サザルモ同區域ト同様察哈爾ニモ一種ノ緩衝的平和境ヲ設ケントスル趣旨ニ基クモノニシテ右協定ニ際シ秦德純並ニ蕭振瀛ハ關東軍代表タル土肥原ニ對シ極メテ恭順ノ態

三、日本側ノ察哈爾省内ニ於ケル正當ナル行為ヲ尊重ス
四、昌平延慶大林堡ヲ經テ長城ニ至ル線以東ノ地域及獨石口北側ヨリ長城ニ沿ヒ張家口北側ヲ經テ張北縣南側ニ至ル線以北ノ地域ヨリ宋哲元軍ヲ撤退セシメ撤退後ノ治安ハ保安隊ヲシテ當ラシム

五、以上ノ撤退ハ六月二十三日ヨリ二週間以内ニ撤收ヲ完了ス
以上回答ノ内容ハ極秘ニ附セラレ度キ軍側ノ希望ニ付右様御含アリ度シ

323 昭和10年6月28日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

察哈爾省における日本側の正當な行為を尊重するとの承諾事項に關シ具体的内容を土肥原・秦間で口頭約束について

北平 6月28日後発
本省 6月28日後着

第二二〇號

往電第二一四號ニ關シ

度ニテ漸次日本側ノ要求ニ副フ意嚮ナルヲ以テ充分ノ協力ヲ得度キ旨ヲ懇請シ土肥原ニ於テモ其ノ態度ニ付満足シ居ル模様ナリ
本件ハ全然土肥原ノ本官ニ對スル友誼上内話セル次第第二付絕對部外ニ洩レサル様御注意ヲ請フ

324 昭和10年7月(3)日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

石友三および劉桂堂兩軍の察哈爾省方面進出に關する高橋武官補佐官の觀測について

北平 發
本省 7月3日後着

第二二七號(極秘扱)

往電第二一四號(四未段ニ關シ)

石友三及劉桂堂カ部下ヲ引連レ察哈爾省方面ヘ乘込メル由聞込ミタルヲ以テ高橋武官ニ確メタル處軍ニテモ同様ノ聞込アリタルニ付土肥原少將ヨリ承德特務機關長ニ對シ其ノ眞相取調ヲ命シ其ノ結果ニ依リ何分ノ措置ヲ講スル筈ナル趣ナルカ右ハ今回察哈爾ニ於テ設定セル長城線以北ノ地域

ニ於ケル宋哲元軍撤退後ノ治安ハ保安隊ヲシテ維持セシムルコトナレル爲從來停戰地域内ニ於テ日支双方ノ干涉ニ依リ活動思ハシカラサリシ石友三及劉桂堂カ察哈爾方面ニ於テ一仕事セントノ魂膽ニ出テタルモノト觀測セラル支、南京、天津、張家口へ轉電セリ

325 昭和10年7月[9]日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

何應欽が同意書提出について

北平 7月9日後発
本省 7月9日後着

第二三三號(極秘扱)

往電第一九八號ニ關シ
其ノ後多少ノ曲折ヲ經タル後冒頭往電記載ノ何應欽ヨリ提出スヘキ書面ノ内容中「何應欽ニ申入ノ事項並ニ右附帶事項」ナル部分ヲ「何應欽ニ申入ノ總テノ事項」ト改ムルコトトナリ右趣旨ノ何應欽ノ書面七日當地軍事分會ヲ經テ高橋輔佐官へ送付越セル趣ナリ
支、南京、天津へ轉電セリ

326 昭和10年7月31日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

察哈爾省保安隊問題に関する高橋武官補佐官の内話について

北平 7月31日後発
本省 7月31日後着

第二六〇號(極秘扱)

往電第二五四號前段察哈爾省保安隊問題ニ關シ高橋補佐官ノ内報スル所ニ依レハ其ノ後察哈爾省當局トノ話合ツキタルヲ以テ右ニ關シ關東軍ノ意嚮照會中ナリシ處此ノ程關東軍ヨリ承認アリタルヲ以テ張家口松井中佐ヨリ其ノ旨察哈爾當局へ傳フル筈ニテ其ノ内容左ノ如キ趣ナリ
「察哈爾省内漢人地方ニ於ケル保安隊ノ數ハ四千人トシ今後三個月間ニ右四千人ヲ訓練シテ現存ノ舊保安隊並ニ二軍隊ヲ改編シテ便宜上保安隊トセルモノト入替ユ
三、右漢人地方ニ於ケル保安司令ハ從來通り張允榮トス
三、察哈爾省内蒙古人地方ニ於ケル蒙古人保安隊ハ從來ノ儘トシ同地方ニ於ケル保安長官ハ從來通り「チヨトパシヤツプ」(卓圖巴察又ハ卓持巴札普)トス

四、但シ關東軍ハ以上ノ措置ヲ承認スルニ當リ察哈爾省内ニ於ケル察哈爾部ヲ察哈爾盟ニ改メ「チヨトパシヤプ」ヲシテ其ノ盟長ヲ兼ネシムルコトヲ條件トス(此ノ點ニ付テハ在張家口領事代理發閣下宛公信客年機密第一一〇號及第一〇二號御參照アリタシ)

尙本件交渉ハ關東軍ニ於テ察哈爾當局ヲ相手トシテ地方的ニ解決シツツアルモノニシテ南京政府ヲシテ關係セシメ居ラサル趣ニ付右御含ミヲ請フ
支、南京、天津、張家口へ轉電セリ

327 昭和10年8月2日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

察哈爾省保安隊問題の条件修正について

北平 8月2日後発
本省 8月2日後着

第二六三號(極秘扱)

往電第二六〇號ニ關シ
高橋補佐官ノ内報スル所ニ依レハ其ノ後關東軍ニ於テハ察哈爾部ヲ盟ニ改メ「ソトバジヤツプ」ヲシテ盟長ヲ兼ネシ

ムル件ハ保安隊問題ト切離シテ交渉スルコトトシ同問題解決ノ條件トセサルコトニ變更シタル趣ナリ
支、南京、天津、張家口へ轉電セリ
(欄外記入)
研究ノコト
尙蒙古方面主任官ニ説明ヲ受ケ度シ

328 昭和10年8月(6)日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

灤州駅において塘沽停戰協定区域保安總隊長等に対する狙撃事件発生について

天津 発
本省 8月6日後着

第二〇三號(至急)

當館警察灤州出張所ヨリノ報告ニ依レハ四日午後三時四十五分唐山ヨリ灤州驛ニ到着セル停戰區域保安總隊長劉佐周ハ唐山日本守備隊長溫井少佐ト共ニ下車シ手槍隊長顧文治ノ指揮スル護衛隊十餘名ニ護ラレ驛ノ西端ニ到リ自動車ニ

乗車セントセル利那群衆中ヨリ突然拳銃數發ヲ發射セル支那人アリ劉ハ即死、顧ハ生命危篤、溫井少佐ニ隨行セル北村補助憲兵ハ重傷ヲ負ヒタル事件アリ犯人ハ逃走ニ際シ手榴彈ヲ落シタル處爆發シ左足首附近ニ負傷セル儘驛ノ北方ニ逃走セルカ事件發生ト共ニ溫井隊長指揮ノ下ニ捜査本部ヲ守備隊内ニ置き日支各機關ヲ召集極力犯人捜査中ノ趣ナリ支、北平、南京、滿ヘ轉電セリ

329 昭和10年8月(8)日 在天津川越總領事より 広田外務大臣宛(電報)

濰州事件に関する支那駐屯軍の調査詳細について

天津 発

本省 8月8日前着

第二〇五號

往電第二〇三號ニ關シ

一、山海關出張中本件發生ノ報ニ接シ四日濰州ニ急行調査ヲ遂ケ六日歸津セル駐屯軍石井參謀ヨリ岸ノ聴取セル要旨左ノ通

(イ)北村憲兵ハ發砲セルハ二名ナリト陳述シ居ルモ三名ナ

會セルカ右ハ以前ヨリノ約束ニ基クモノニシテ會談ハ航空問題及北支一般問題ヲ主トシ序ヲ以テ我方ハ濰州事件ヲ極メテ重大視シ居ル旨王ノ注意ヲ喚起セルニ止マル趣ナリ

三、北村ハ腹部ニ貫通傷ヲ受ケ天津軍病院ニテ加療中ナルカ目下ノ處生命ニ別條ナキ模様ナリ

支、南京、北平、滿ヘ轉電セリ

330 昭和10年8月16日 在雲南川南(省)領事より 広田外務大臣宛(電報)

濰州事件関与の容疑で日本軍憲兵が陶尚銘駐

平政務整理委員会參議を連行・拘禁したこと

に関する民国日報の報道振りについて

雲南 8月16日後発 本省 8月17日前着

第二八號

本官發支宛電報

第一五號

陶尚銘拘禁事件ニ關シ當地黨部機關紙民國日報ハ十五日ノ

リト云フ者アリ又「プラットフォーム」ノ向側ヨリ一名發砲セルヲモ目撃セリト云フ者モアリ手榴彈ヲ投セシハ別人ナリトノ說モアリ尙犯人ハ柵ノ間ヨリ發砲セルカ先ツ北村ニ當リ第二彈ハ溫井少佐ニ向ケラレタルモ命中セス次テ劉、胡兩名倒レタリ

(ロ)現場ニ在リタル劉ノ護衛兵、公安局巡警、鐵路局路警等ハ犯人ヲ追跡セントセス追掛ケシハ銃聲ヲ聞キ約一丁半ヲ隔ツル日本兵營ヨリ馳付ケタル日本兵七、八名ノミナリ

(ハ)我方ニテハ約百名ノ支那人ヲ訊問セルモ犯人ノ手懸ヲ得サル處(取調濟ノ者ハ順次釋放セリ)支那側ニテ連累者ト目サルル一名ヲ抑留シ居レルカ同人ハ治安攪亂ノ目的ヲ以テ入込メル旨供述シ居レル由ニシテ犯人カ現場ニ遺留セル籠ノ中ニ血ノ着キタル七月二十九日ノ天津大公報及手榴彈アリタル事實ト照合スルニ犯人ハ何者カノ使囑ニ依リ二十九日頃平津地方ヨリ濰州方面ニ入込ミタルモノナルコト想像ニ難カラス(犯人ニ關スル點發表方嚴ニ見合セラレ度シ)

ニ、酒井參謀長ハ儀我大佐等ト共ニ五日北平ニテ王克敏二面

紙上ニ左記要旨ノ論說ヲ掲ケタリ黨部此ノ種言論トシテハ從來ニ比シ頗ル穩健ナルモ折角好轉シタル對日感情ニ刺戟ヲ與フル惧モアルニ付速ニ真相ヲ發表シ誤解ヲ解ク様御取計アリタシ

一、本件ハ中國ノ法權ヲ蹂躪^ツ獨立ノ尊嚴ヲ冒スト同時ニ日本ノ法治國タル名譽ヲモ喪失スルモノナルコトヲ斷言シ得ルコト

二、中日關係好轉ノ初ニ當リ斯ル重大ナル不幸事件ノ突發ハ直接ニハ中國人民ノ感情ヲ刺戟シ日本ノ提唱スル親善ノ口號ニ對シ非常ナル懷疑ヲ起サシメ間接ニハ世界各國ノ反感ヲ招キ日本ニ對シ國際公法破壞ノ嫌疑ヲ懷カシメ結局日本ノ不利ニ終ルコト

三、日本カ治外法權ヲ濫用シ駐在國官吏ヲ拘禁セルハ現世界ノ公法擁護正義ノ主張者ヨリ反對セラルヘク右ハ實際上日本ニ損失無シトスルモ同情ヲ失フ結果ヲ招キ日本ニ取リ有害無益ナルコト

ノ三點ヲ舉ケタル後尙右ノ外本件ノ及ホセル惡影響枚舉シ難キモ日本ニハ眼光濶大ノ士ニ乏シカラサルヲ以テ希ハクハ深思熟慮ノ上法理正道ニ從ヒ誠意ヲ以テ中國ト相見ユル

様日本政府ニ忠告セラレンコトヲ望ム斯テコソ中日親善ノ眞意義眞價值ノ存在ヲ認メ所謂文明法治國タル日本ノ實体ヲ知り得今後係争事件解決ニモ中國人民ヲシテ何等日本ニ懷疑ヲ生セシムル惧無キニ至ラン大日本眼光濶大ノ士以テ如何ト爲ス云々ト結ヘリ
上海、南京ニ轉電アリタシ
大臣ヘ轉電セリ

331 昭和10年8月17日 在中國若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

王克敏への陶尚銘身柄引渡しに関する高橋武
官補佐官の説明について

北平 8月17日後発
本省 8月17日後着

第二八〇號(至急、極秘扱)

高橋補佐官ノ内報スル所ニ依レハ軍ニ於テハ十七日午後二時陶尚銘ノ歸宅ヲ許シタル處右ハ外交部ノ抗議ヲ容レタルニアラス又陶ヲ釋放シタルニモアラス從テ必要アレハ召喚スルモノニシテ單ニ身柄ヲ王克敏ニ預クルト云フ建前ヲ執

付記 十月二十九日付在天津川越總領事より商震河

北省主席他宛公文抜粹

排日機關の取締方要求について

○編注
昭和十年十一月七日

在天津總領事 川越 茂

外務大臣 廣田 弘毅殿

當地方不逞分子取締要求ニ對スル支那側回答譯文

送付ノ件

當地方ニ於ケル不逞分子取締方ニ關シ本官ヨリ客月末商主席外三名ニ公文ヲ以テ申入置キタル處今般前記四名ヨリ夫々別添譯文ノ如キ回答有リタルニ付茲ニ送付ス御査閱相成度シ

河北省政府公文譯

秘平字第五一號

拜啓

陳者貴總領事ヨリ第二二六號公文ヲ以テ「貴國側ノ排日分子取締ニ關シテハ未タ何等實績ヲ見サルニ付至急徹底の手段方法ヲ講シ所轄管内ノ各種排日機關ノ存在及其ノ活動ヲ

リ其ノ監視及保護ニ關シテハ王ニ於テ責任ヲ負フコトトセ
ル趣ナリ
尙在當地本邦新聞記者ニ對シテハ發表セサル條件ノ下ニ右ノ次第ヲ同補佐官ヨリ内話スル趣ナリ
支、南京、天津、濟南、青島、漢口、廣東、福州、廈門ヘ
轉電セリ

編注 中国外交部は、八月十二日付有吉大使宛公文を以て、

「確報ニヨレハ行政院駐平政務整理委員會參議陶尚銘ハ本月五日北平大使館内ニ留置セラレ未タ釋放セラレサル趣ナルカスノ如キ不法行爲ハ支那ノ主權ヲ侵害シ兩國ノ友誼ヲ傷クルモノニシテ斷シテ容認シ難キニ付至急釋放アルト共ニ將來此種事件ノ再發防止方保障アリ度」旨抗議を申入れた。

332 昭和10年11月7日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛

灤州事件に関連した我が方の平津方面排日機關取締要求に対する商震河北省主席らの回答について

禁絶セラレタシ」云々ト御申越有之候處本件ニ關シテハ曩

ニ貴總領事ヨリ御申入有之候節所屬機關ニ對シ特ニ注意ヲ加ヘ排日分子ヲ精査捕搏シ以テ睦誼ヲ敦フシ治安ヲ維持スヘキ旨訓令致シ候其ノ後各縣ヨリノ報告ニ據レハ斷シテ排日機關ノ存在及其活動無シトノ事ニ候モ本省ハ境域廣大ニシテ或ハ疏漏ナキヲ保シ難ク候條再ヒ所屬機關ニ對シ期限ヲ切り嚴探ノ上若シ發見セハ確證ヲ得即座ニ嚴罰ニ處シ以テ根跡ノ絶滅ヲ期スル様嚴命致シ置候間右ニ御了承相成度此段回答得貴意候 敬具

中華民國廿四年十一月一日

主席 商 震

駐津日本總領事 川越 茂殿

編注一 本公信は軍令部に參考送付されたもので、公信番号および接受日は不明。

二 以下、十一月一日付宋哲元平津衛戍司令回答、同四日付程克天津市長回答、十月三十一日付袁良北平市長回答は省略。

(付記)

天津地方ニ於ケル黨部及藍衣社等一切ノ反日抗滿の機關ノ彈壓ハ過般ノ北支事件ニ際シ貴國側ノ誓約セル所ナリ然ルニ灤州事件ノ調査其他我方屢次探查ノ結果ニ依レハ右誓約ニ拘ラス支那側ノ反日滿の機關ハ名稱ヲ變ヘ形ヲ異ニシ秘密的存在トシテ今尙多數潛在シ依然トシテ活動ヲ繼續シ居ル證據歴然タルモノアリ然ルニ此等ニ對スル貴方ノ取締ハ極メテ微溫のニシテ誠意ノ疑ハルモノ少カラサルノミナラス時トシテ却テ陰然之ヲ助成シ居ルニ非サルヤヲ思ハシムルモノアルハ本總領事ノ甚タ遺憾トスル所ナリ排日不良分子ノ徹底の排除斷行方ニ關シテハ曩ニ九月二日附公文ヲ以テ嚴重警告ヲ發シ置キタルニ拘ラス其後支那側ノ取締ハ實績ノ認ムヘキモノナシ斯テハ北支ニ關スル各種申合ニ違反シ益々事態ヲ紛糾ニ導クノ虞アリ依テ本總領事ハ茲ニ重ネテ貴(主席)ニ對シ管下各種排日機關ノ存在並其活動ヲ絶無ナラシムル爲迅速且徹底のナル手段方法ヲ執ラレンコトヲ要求ス

編注 本付記は、東亞局第一課が昭和十年十二月に作成した

二、前顯北支問題ニ對シテハ國民政府ハ既ニ日本側ノ申出ヲ全部承諾スルコトニ内定シタルカ反對者ノ策動ヲ慮リ五全大會終了(二八、九日頃ノ由)ヲ俟テ之ヲ實行スルコトニ決定シ居ル由
内話シタル趣ナリ(發表セサル様致度シ)
北平、南京、天津へ轉電セリ

(付記)

北支軍憲ヲ相手トスル天津軍ノ措置
一、灤州事件ニ關シ商震ハ河北各機關ヲ代表シ遺憾ノ意ヲ表スルコト
二、犯人ヲ速ニ逮捕スルコト

議會調書「最近支那關係諸問題摘要(第六十八議會用) 下卷」より抜粋。

333 昭和10年11月11日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

灤州事件に關連した日本側申入れの全面承諾を内定した旨唐有壬内報について

付記 十月二十九日、支那駐屯軍より商震河北省主席宛口頭申入れ事項

「北支軍憲ヲ相手トスル天津軍ノ措置」

上海 11月11日後発
本省 11月11日後着

第九三三號

九日唐有壬ハ他用訪問ノ有野ニ對シ

一、先日蔣作賓カ廣田外相トノ會談ノ内容ヲ蔣介石ニ報告シタル際蔣介石ハ多田司令官ノ「パンフレット」問題及最近ノ北支問題ニ關スル日本側ノ要求(川越總領事ノ抗議及軍側申出)ニ言及シ「ドウモ日本ノ態度ハ何レガ本物ナルヤ判斷ニ苦ム」ト零シ居タル旨及

(以上要求事項)

三、北平軍事分會及之ニ系統スル各機關ヲ撤去シ且袁良ヲ罷免スルコト

四、停戰及北支協定ヲ徹底のニ實行シ且將來反日滿策動機關ヲ北上セシメサルコト

(以上ハ支那側ヲシテ自主的のニ實施スル如ク天津軍ハ勸告的のニ側面ヨリ交渉シ南京武官ハ裏面的のニ指導ス)

編注 本付記は、東亞局第一課が昭和十年十二月に作成した

議會調書「最近支那關係諸問題摘要(第六十八議會用) 下卷」より抜粋。